

国立国会図書館



テラコヤ（寺子屋）

「日本」を発信した長谷川武次郎の出版

国立国会図書館サーチ

2011.7/8
No.
604/605

国立国会図書館利用案内

東京本館

所在地 〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1
電話番号 03(3581)2331
利用案内 03(3506)3300(音声サービス)
03(3506)3301(FAXサービス)
ホームページ <http://www.ndl.go.jp/>
利用できる人 満18歳以上の方
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。
休館日 日曜日、国民の祝日・休日、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)
おもな資料 和洋の図書、和雑誌、洋雑誌(年刊誌、モノグラフシリーズの一部)、和洋の新聞、各専門室資料

サービス時間

開館時間	月～金曜日 9:30～19:00 土曜日 9:30～17:00	即日複写受付	月～金曜日 10:00～18:00 土曜日 10:00～16:00
	<small>※ただし、音楽・映像資料室、憲政資料室、古典籍資料室の開室時間は17:00までです。</small>	後日複写受付	月～金曜日 10:00～18:30 土曜日 10:00～16:30
資料請求時間	月～金曜日 9:30～18:00 土曜日 9:30～16:00	オンライン複写受付	月～金曜日 10:00～17:30 土曜日 10:00～15:30
	<small>※ただし、音楽・映像資料室、憲政資料室および古典籍資料室の資料請求時間は16:00までです。</small>		

■見学のお申込み／国立国会図書館 資料提供部 利用者サービス企画課 03(3581)2331 内線26111

関西館

所在地 〒619-0287 京都府相楽郡精華町精華台8-1-3
電話番号 0774(98)1200(音声サービス)
利用案内 0774(98)1212(FAXサービス)
ホームページ <http://www.ndl.go.jp/>
利用できる人 満18歳以上の方
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。
休館日 日曜日、国民の祝日・休日、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)
おもな資料 和図書・和雑誌・新聞の一部、洋雑誌、アジア言語資料・アジア関係資料(図書、雑誌、新聞)、科学技術関係資料、文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書、博士論文

サービス時間

開館時間	月～土曜日 10:00～18:00	即日複写受付	月～土曜日 10:00～17:00
資料請求時間	月～土曜日 10:00～17:15	後日複写受付	月～土曜日 10:00～17:45
セルフ複写受付	月～土曜日 10:00～17:30	オンライン複写受付	月～土曜日 10:00～17:00

■見学のお申込み／国立国会図書館関西館 総務課 0774(98)1224 [直通]

国際子ども図書館

所在地 〒110-0007 東京都台東区上野公園12-49
電話番号 03(3827)2053
利用案内 03(3827)2069(音声サービス)
ホームページ <http://www.kodomo.go.jp/>
利用できる人 どなたでも利用できます(ただし第一・第二資料室は満18歳以上の方)。
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。
休館日 月曜日、国民の祝日・休日(5月5日こどもの日は開館)、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)
※第一・第二資料室は、休館日のほか日曜日に休室します。メディアふれあいコーナーと本のミュージアムは、行事等のため休室することがあります。
おもな資料 国内外の児童図書・児童雑誌、児童書関連資料

サービス時間

開館時間	火～日曜日 9:30～17:00	<small>※1階子どものへや、世界を知るへやおよび3階メディアふれあいコーナー、本のミュージアムの利用時間は、開館時間と同じく9:30～17:00です。</small>	
第一・第二資料室の利用時間	閲覧時間	火～土曜日 9:30～17:00	資料請求時間 火～土曜日 9:30～16:30
複写サービス時間	即日複写受付	火～日曜日 10:00～16:00	後日複写受付 火～日曜日 10:00～16:30
	複写製品引渡し	火～日曜日 10:30～12:00 13:00～16:30	

■見学のお申込み／国立国会図書館国際子ども図書館 03(3827)2053 [代表]

02 未来戦小説の時代 それでは、人類はどの戦争を選んだか

今月の一冊 国立国会図書館の蔵書から

04 テラコヤ（寺子屋） 「日本」を発信した長谷川武次郎の出版

18 新しい統合検索サービス 国立国会図書館サーチ

22 中国国家図書館の国家機関へのサービス

28 平成22年度の国立国会図書館 活動実績評価報告

34 言葉のエッセイ 第7回 濁るか濁らないか

27 館内スコープ

『びぶろす』 支部図書館制度とともに

35 本屋にない本

○『名古屋400年のあゆみ Nagoya1610-2010 開府400年記念特別展』

36 NDL NEWS

- 第20回納本制度審議会および第8回納本制度審議会代償金部会
- 平成23年度国立国会図書館長と都道府県立及び政令指定都市立図書館長との懇談会
- 平成23年度国際子ども図書館連絡会議
- 法規の制定
- おもな人事

40 お知らせ

- 国際子ども図書館展示会「世界をつなぐ子どもの本—2010年国際アンデルセン賞・IBBYオナーリスト受賞図書展」
- 「国立国会図書館典拠データ検索・提供サービス (Web NDL Authorities) 開発版」を公開しました
- 本の万華鏡 (第7回) 「ドイツに学び、ドイツに驚く—近代日独関係のひとコマ」
- 関西館小展示 (第9回) 「日本人と英語」
- 国際子ども図書館で電子情報が利用できるようになりました
- 平成23年度レファレンス研修
- 新刊案内 国立国会図書館の編集・刊行物

未来戦小説の時代

それでは、人類はどの戦争を選んだか

藤元 直樹

今日、「架空戦記」と呼ばれる、現実には戦われていない戦争を描く小説が数多く出版されている。その多くは過去に舞台を取り、現実とは異なる要素を加え、結果どのような局面が立ち現れるかという思考実験の妙を楽しむ娯楽小説といってよい。しかしこうした改変歴史小説が大勢を占めるようになったのはおそらくここ30年ほどのことであり、それ以前の主流は、来るべき戦争の姿を予測し、警鐘を鳴らす「未来戦小説」であった。そして、鎖国から開国へと、グローバリズムの渦中に投げ込まれた明治の日本において、西洋から持ち込まれたそれは、享樂の対象ではなく、真摯な検討を要する有り得べき戦いの見取り図であった。

例えば英露の衝突を描いたロシアの匿名出版物 *Крейсер “Русская Надежда”* (1887) の英訳本 *The Russia's hope* (1888) は、「巡洋艦『鵬翼号』」として『国民之友』に連載された後、1896年『世界将来之海王』の題で、海軍将校の親睦・研究団体である水交社の雑誌『水交社記事』の付録として刊行されている（その直後に、春陽堂からも刊行された）。また同誌は1898年、「水雷艇の戦闘」として、いわゆる「ジェーン年鑑」¹の創刊者 F. T. ジェーンの未来戦小説 *Blake of the “Rattlesnake”* (1895) も連載している（こちらは後に、一般誌『太陽』に「英露仏の衝突」の題で再掲載された）。

また、日米衝突を予見した書物の中で、おそらく最も影響力を持ったホーマー・リーの *The valor of ignorance* (1909) は、水交社からリプリントされ、続く英文通信社刊行の翻訳『日米必戦論』には陸軍大臣官房名義の取扱注意の言葉

が記されており、これも軍の意向を受けた出版物であったことが明らかである。当然、海軍文庫、参謀本部の蔵書目録にもこうした未来戦小説がいくつも記録されていた。

同様に、国立国会図書館の前身である帝国図書館が選択購入していた洋書の中には、古典作品を除けばほとんど小説類が含まれていなかったにもかかわらず、結果的にこの種の作品が多く所蔵されることになったのは、喫緊に検討されるべき課題が物語化されたものとして、これらが重要視されたことの現れといえよう。もっとも、次第に「露骨な敵愾心をあおり立て、また幼稚なヒロイズムをふり回して、型通りの戦闘場面を熱っぽくつみ重ね」²た際物の山が築かれていくことにもなったわけであるが。

さて、すっかり過去の遺物と化したはずのこれらの書物を、近年、他者への恐怖を煽りたてた裏返しの異文化交流として読み解き、そこに刻印された自他のアイデンティティを検討する動きが起こっている。イギリスでは *Sources of science fiction : future war novels of the 1890s* として19世紀末の未来戦小説が復刻されており、日本でも『英国黄禍論小説集成』 (*Yellow Peril, Collection of British Novels 1895 - 1913* エディション・シナプス)、『アメリカ近未来戦争小説集1880-1930』 (*American future-war fiction : China and Japan, 1880-1930* アティーナ・プレス) といった研究者向けの影印版叢書が刊行されている。

書庫の隅にさりげなく並ぶこれらの書物は、実は非情な戦乱の時代の空気を封じ込めたタイムカプセルでもあるのだ。

(ふじもと なおき 総務部情報システム課)



写真1

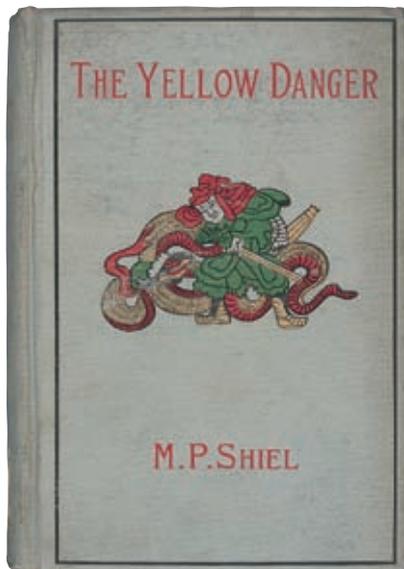


写真2

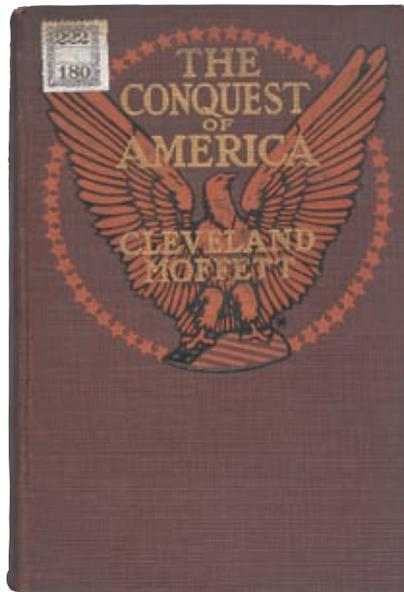


写真3

写真1 東京図書館～帝国図書館時代の蔵書から
 写真2 橋川文三は「黄禍物語」執筆にあたって、本書を国立国会図書館で読んだという。規模が雄大で「すごく面白そうなもの」と評している。中国と日本が同盟してヨーロッパに攻め入る物語である。

Shiel, M. P. *The yellow danger, or, What might happen if the division of the Chinese empire should estrange all European countries.* New York : R. F. Fenno & Co., 1899. 388 p.
 <請求記号 113-283>

写真3 馬場孤蝶が『新日本』1917年3～5月号に「米独戦争 アメリカ征服」として翻訳を連載していた。

Moffett, Cleveland. *The conquest of America : a romance of disaster and victory : U.S.A., 1921 A.D.* New York : George H. Doran Co., c1916. 310 p.
 <請求記号 222-180>

写真4 ドイツのグラウトフ (F. H. Grautoff) が Parabellum 名義で刊行した *Banzai!* <第2版 請求記号 KS397-A29> を英訳したもの。アメリカの反日感情を煽るために書かれたプロパガンダ小説であるといわれている。邦訳は『ばんざい!』(朝香屋書店 1924)。

Parabellum. *Banzai!* London : Stanley Paul & co., 1909. xi, 320 p.
 <請求記号 Ba-281>

写真5 冒険小説『海底軍艦』の著者として知られる押川春浪の後任として、博文館の青年誌『冒険世界』の主筆となった阿武天風が、同誌1915年4～9月号に連載した「人種戦争」の原作。域内戦争で疲弊した欧州にアジアが襲いかかる。

Westerman, Percy F. *When East meets West : a story of the yellow peril.* London : Blackie & Son, [1913]. xi, 292 p.
 <請求記号 206-96>

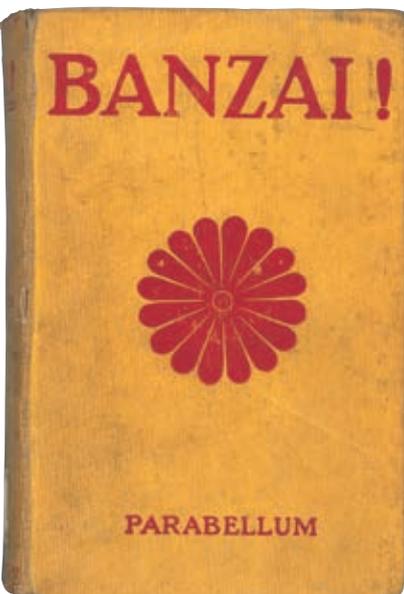


写真4

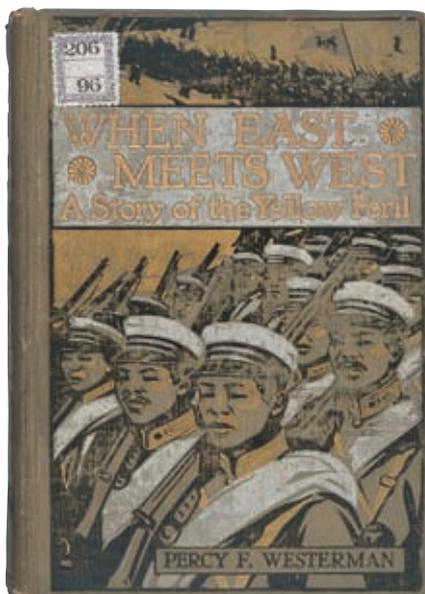


写真5

注1 軍事関係の年鑑。

注2 佐伯彰一著『外から見た近代日本』(講談社学術文庫) 1984 pp.93-94

テラコヤ（寺子屋）

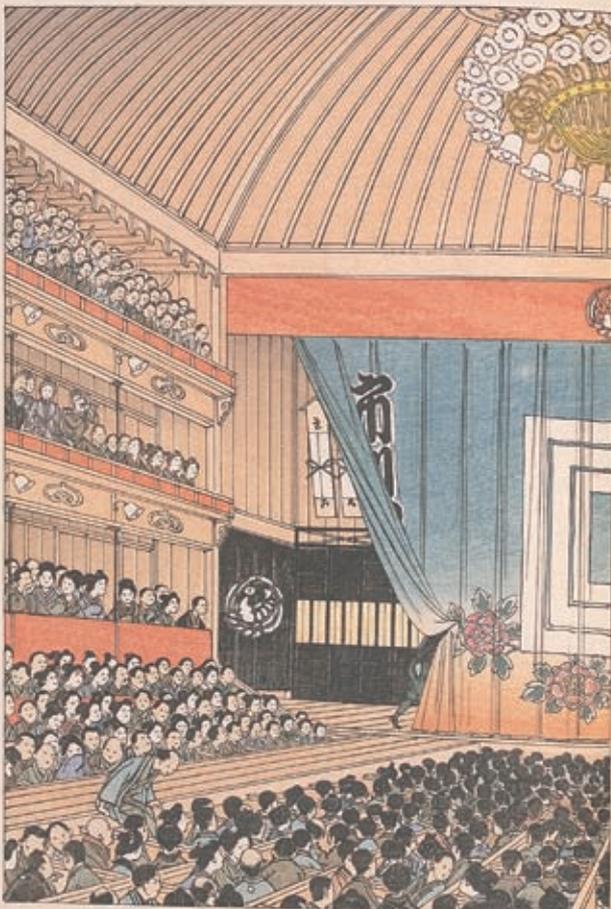
「日本」を発信した長谷川武次郎の出版

大塚 奈奈絵

2010年1月30日、フランクフルトのダルムシュタット州立劇場（Staatstheater Darmstadt）で、オペラ“Gisei-Das Opfer”が初演された。「カルミナ・ブラーナ」の作曲者として有名なカール・オルフが18歳のときに初めて作曲し、作曲から100年近くの間オルフ自身によって封印されていた、この幻のオペラの原作となったのは、竹田出雲作、カール・フローレンツ翻訳の『寺子屋』、長谷川武次郎により明治33（1900）年に出版されたちりめん本である。

本稿では、長谷川の出版事業がどのように日本の文化を欧米に伝え、欧米の文化にどのような影響を与えたかを文献によりたどっていく。

パリ万博に出品されたフランス語版『寺子屋』（注15） 巻頭（本頁）および標題紙（次頁）



1 長谷川武次郎のちりめん本

長谷川武次郎は、1853年10月8日、東京で食品やワイン、たばこを輸入していた西宮家の次男として生まれ、ミッションスクールで英語を学んだ。母方の姓を継いで長谷川を名乗り、のちに、彫師、刷師を多く抱えて手広く印刷業を営んでいた小宮家の娘ヤス（屋寿）と結婚した。ヤスは、後に「印刷者」の1人として、長谷川のちりめん本の奥付に名前を連ねることになる。

食品や文具、洋書の輸入を経て、明治18（1885）年から刊行を始めたいわゆる「日本昔噺シリーズ」には、当初から英語・ドイツ語・フランス語・

オランダ語版があり、後には、スペイン語・ポルトガル語・ロシア語・デンマーク語でも刊行された。国内向けの木版白黒の挿絵で平紙の茶色表紙本と、木版多色刷りの挿絵入りちりめん本の2種類があった。「ちりめん本」は、木版多色刷りで挿絵を印刷し、さらに文字を印刷した和紙を圧縮してちりめん状に加工した絵入り和装本で、柔らかく、ちりめんの布に似た風合いから「ちりめん本」と呼ばれた。ちりめん仕立てに和紙を加工することは、寛政期（1789～1801）前後から大正期頃まで流行し、1枚摺り版画や和装アクセサリ、千代紙が作られていた。



SCÈNES DU
THÉÂTRE
JAPONAIS.

寺子屋

L'ÉCOLE DE VILLAGE.

(TERAKOYA)

Drame historique en un acte.

Traduction du
Dr. Karl Florenz,
Professeur à l'Université
Impériale de Tokyo.

1900.

Publié par T. Hasegawa, Éditeur,
Tokyo, Japon.

ちりめん本を作り始めた経緯について、長谷川は、後に次のように回想している¹。

明治16年頃に日本の昔噺を木版刷の繪本にして英文の説明を加えて出したのが始めて、外国に知り合いがあったもんですから直に輸出をしましたのですけれども、あまり大した賣行もありませんでした。其の中に不圖縮紙でしたらばと思いついてやってみました處、これが案外評判が宜しくて盛んに歓迎されました。

翻訳者には、日本学の権威であるバジル・ホール・チェンバレン、ヘボン式ローマ字で有名なジェームズ・ヘボン（ヘプバーン）、小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）等がおり、挿絵も小林永濯^{えいたく}や鈴木華^から日本画家による芸術性の高いものであった。長谷川弘文社のちりめん本は、来日した外国人のお土産として珍重され、英語圏では「クレープ・ペーパー・ブック」と呼ばれて世界に広まった。現在、国内では、児童書として高く評価され、研究書や書誌類が多数刊行されている²一方、外国でもアメリカのピーボディ・エセックス博物館やイタリアのスティッベルト博物館から解説や所蔵カタログが出版されている³。

2 長谷川武次郎の国際出版

明治18（1885）年の長谷川弘文社のちりめん本「日本昔噺シリーズ」は、海外出版者と提携し

た最初の例であるといわれる⁴。

長谷川弘文社は、ちりめん本を自身の店舗のほか、丸善やガゼット新聞社（Japan Gazette）の横浜売捌店などで販売するとともに、横浜、香港、上海、シンガポールに支社を持つケリー&ウォルシュ社（Kelly & Walsh）を通じて輸出・販売していた。

「日本昔噺シリーズ」の英語版は、ロンドンのグリフィス・フェアラン社（Griffith, Farran & Co.）との販売契約により、ロンドンとシドニーで販売された。19世紀の児童図書出版が幅広い国際的な交流の中で行われていたことを背景に考えると、「日本昔噺シリーズ」は、グリフィス・フェアラン社により、単なる「横浜みやげ」ではなく、質の高い児童書として認められていたのではないかと指摘されている⁵。「日本昔噺シリーズ」の英国版はすべてグリフィス・フェアラン社名義で、日本国内版は長谷川弘文社名義で発行されていることから、長谷川弘文社とグリフィス・フェアラン社の契約は、「特約販売」というレベルとは異なる共同出版であり、契約の範囲内でそれぞれが発行者を名乗っていたことを示すというのである。

明治20年代後半になると、長谷川弘文社は、「日本昔噺シリーズ」のドイツ語版の翻訳者であったカール・フローレンツ⁶の仲介によって、ライブ

1 長谷川武次郎「木版畫の輸出」『美術新報』（畫報社）13（3）1914.1 pp.26-30 <マイクロフィッシュ請求記号 YA5-39>

2 代表的なものとして、石澤小枝子著『ちりめん本のすべて 明治の欧文挿絵本』（三弥井書店 2004）<請求記号 UM24-H4>があり、本稿の長谷川武次郎の生い立ちについての記述はこれによっている。

3 Sharf, Frederic A. *Takejiro Hasegawa : Meiji Japan's preeminent publisher of wood-block-illustrated crepe-paper books*. Peabody Essex Museum, 1994. <請求記号 UE17-A4>、Riccardo Franci. *Takejiro Hasegawa e le fiabe giapponesi del Museo Stibbert*. Sillabe, c2008. <請求記号 UM24-B2>

4 羽生紀子「明治期日本出版と出版離陸、その後—翻訳・輸入と海外出版市場」『鳴尾説林 日本文学研究誌』（武庫川女子大学日本文学談話会）（9）2001.11 pp.1-12 <請求記号 Z13-B60>

5 アン・ヘリング「続・縮緬本雑考（1）」『日本古書通信』（日本古書通信社）（461）1982.9 pp.12-14 <請求記号 Z21-160>

6 Florenz, Karl Adolf (1865-1939)

7 カール・フローレンツ著 土方定一、篠田太郎訳『日本文学史』（楽浪書院 1936）<請求記号 665-231イ 館内では「近代デジタルライブラリー」で閲覧可能> 原書は第2版を所蔵。Florenz, Karl. *Geschichte der japanischen Litteratur*. 2.Ausg. C.F.

チヒのアーメランク社 (C.F. Amelang) と契約し、フローレンツが翻訳した日本文学書のちりめん本を出版するようになる。フローレンツは、明治22 (1889) 年に帝国大学のドイツ文学講師として来日し、後に教授となって、約20年間帝国大学で教鞭をとり、外国人としては初めて文学博士号を贈られた人物である。『日本文学史』⁷や日本文学の数々の翻訳・研究で知られ、帰国後の大正3 (1914) 年には、ハンブルク植民学院 (現ハンブルク大学) にドイツ語圏初の日本学正教授として迎えられ、ドイツにおける近代日本学の始祖として知られている⁸。

明治27 (1894) 年に、長谷川弘文社の印刷、アーメランク社の発行により刊行された *Dichtergrüsse aus dem Osten : japanische Dichtungen*⁹ は、『万葉集』の詩歌を中心とした翻訳詩集で、ちりめん紙に彩色木版の挿絵が入った和装本に仕立てられ、彩色木版画の美しい帙に入れられていた。ドイツで人気を得て、大正元 (1912) 年には14版が出版されている。また、明治29 (1896) 年には英訳¹⁰も刊行された。フローレンツが日本の詩歌の翻訳書をちりめん本で出版したことについては、「日本の詩歌を翻訳、紹介するに際してこうした美しい体裁をとったことによって、日本の古典文化を一冊に凝縮して伝達できたものと思われる」「フローレンツ

の母方の祖父が製本職人 (Buchbinder) であったことは、こうした本の体裁への深い関心への遠因になったのではなかっただろうか」とされている¹¹。

なお、この詩歌集の俳句の翻訳のあり方については、上田萬年とフローレ



カール・フローレンツ 肖像
佐藤マサ子著『カール・フローレンツの日本研究』
(春秋社 注8) から転載
(ラファエル・フローレンツ
旧蔵)

ンツが『帝国文学』誌上で5回にわたる論争を繰り広げ、「最初の比較文学論争」¹²と呼ばれている。

その後も、フローレンツは、明治28 (1895) 年に井上巽軒 (哲次郎) の漢詩「孝女白菊詩」を落合直文が新体詩に訳した「孝女白菊」の翻訳¹³をちりめん本で、翌明治29 (1896) 年には、和歌と俳句の翻訳集¹⁴を奉書紙を用いた木版多色刷りで、長谷川弘文社印刷・アーメランク社発行として刊行し、ともにヨーロッパで好評を得た。

3 Terakoyaの誕生

(1) バリ万博への出品

この前後から、1900年のパリ万国博覧会への出品を計画した長谷川は、錦絵の和紙として欧米で高い評価を得ていた奉書紙を使用した、21×28センチの大型本 *Images japonaises et L'école de village (Terakoya)*¹⁵ 2冊の書物を準備した。

Amelang, 1909. <請求記号 D-75a>

⁸ フローレンツの生涯と業績については、佐藤マサ子著『カール・フローレンツの日本研究』(春秋社 1995) <請求記号 KG12-G1>を参照した。

⁹ Florenz, K. *Dichtergrüsse aus dem Osten : japanische Dichtungen*. T.Hasegawa, 1894. <マイクロフィッシュ請求記号 YDM109830>

¹⁰ Lloyd, Arthur (ed. and trans.). *Poetical greetings from Far East : Japanese poems*. T.Hasegawa, 1896. <請求記号 YDM109858>

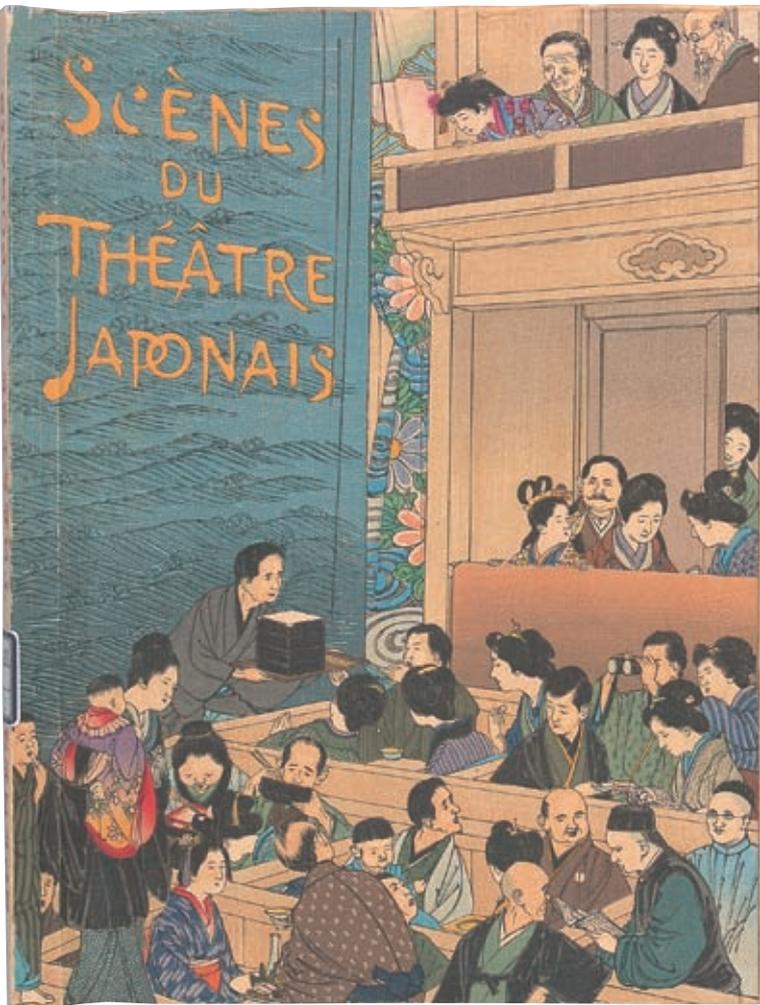
¹¹ 佐藤 前掲 (注8) p.218

¹² 千葉宣一著『モダニズムの比較文学的研究』(おうふう 1998) <請求記号 KE181-G8> p.265

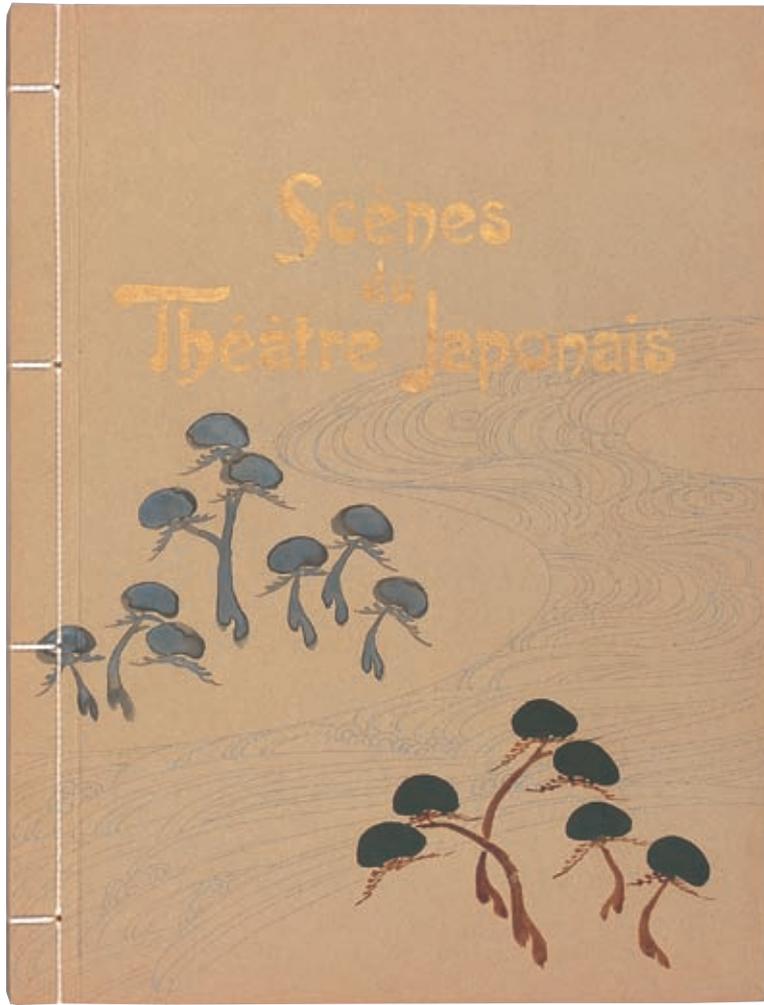
¹³ Florenz, Karl. *Weissaster : ein romantisches Epos, nebst anderen Gedichten*. T.Hasegawa, 1895. <マイクロフィッシュ請求記号 YDM109832>

¹⁴ Florenz, Karl. *Bunte Blätter : japanischer Poesie*. T.Hasegawa, 1896. <マイクロフィッシュ請求記号 YDM109829>

¹⁵ Florenz, Karl. *L'école de village = Terakoya : drame historique en un acte*. T. Hasegawa, 1900. <請求記号 KG288-6> 表紙のタイトル *Scènes du théâtre japonais* で紹介されることもある。



フランス語版『寺子屋』(注15) 左から カバー、表紙



Images japonaises は、1896年に出版した鈴木華邨の版画集¹⁶をベルギーの詩人エミール・ヴェルハーレン¹⁷に送り、詩作を依頼して作成したもので、日本と詩人ヴェルハーレンの「最初の接触」¹⁸と評され、欧米の日本美術愛好家の間で稀覯本とされている。国内の所蔵は2点のみで、いずれも貴重書扱いとなっている。

L'école de village は、歌舞伎『菅原伝授手習鑑』¹⁹の「寺子屋」の段をフローレンツがフランス語に翻訳したもので²⁰、3頁の序文と28頁の本文に加え、歌舞伎座の劇場の構造、音楽や回り舞台を回す様子などが木版多色刷りの端正な挿絵入りで

9頁にわたって紹介されている(次頁写真)。袋綴じ(四つ目綴じ)、表紙は板紙に金の題字、銀色の流水模様主人公の松王を象徴する松を配した図柄で、芝居小屋の客席を描いた美しいカバーを付けた豪華本である(上写真)。挿絵を描いた新井芳宗は、浮世絵師歌川芳宗の子で、月岡芳年の弟子であり、新聞や雑誌の挿絵を多く描いたほか、長谷川のちりめん本にも多くの挿絵を描いている。

長谷川は、1900年4月15日～11月12日に開催されたパリ万国博覧会の3部第13類にこれらの「仏文書籍」を出品し、102フラン25サンチュムを売り上げて²¹ 金牌(賞)を受賞し、以後も1904年

16 Kwasson (ill.) . *Glimpses of Japan*. T. Hasegawa, 1896.

17 Verhaeren, Emile (1855-1916)

18 大場恒明「エミール・ヴェルハーレンの*Images Japonaises*をめぐって」『神奈川大学国際経営論集』(16/17) 1999.3 pp. 85-106 (<http://klibredb.lib.kanagawa-u.ac.jp/dspace/bitstream/10487/4073/1/kana-14-16-17-0007.pdf>) なお、村松定

史「異文化交流のひとつま ヴェルハーレンと縮緬本」『東京成徳大学研究紀要』(8) 2001.6 pp.41-54には、*Images japonaises*の全頁の写真、原文および日本語訳が掲載されている (<http://www.tsu.ac.jp/bulletin/bulletin/pdf/08/P041-054.pdf>)。

19 竹田出雲・三好松洛・並木千柳の合作による延享3(1746)年の浄瑠璃。四段目「寺子屋」の作者は竹田出雲。

のセントルイス万博、1910年の日英万博等、多くの国際博覧会で受賞を重ねることになる²²。

(2) ドイツ語版 *Terakoya und Asagao*

フローレンツは、フランス語版に続き、明治33(1900)年9月、ちりめん本でドイツ語版 *Japanische Dramen : Terakoya und Asagao*²³ を出版し、このドイツ語版もパリ万博に出品された。この本は、歌舞伎『菅原伝授手習鑑』の「寺子屋」の段と、山田案山子『生写朝顔話』の「宿屋」の

段の翻訳で、それぞれの本文の前に作品についての解説が付され、「寺子屋」と「朝顔」は別の頁立てとなっていた。先に出版されたフランス語版に附されていた劇場や歌舞伎についての解説はないが、緒言等を含めると約100頁あり、長谷川のちりめん本の中では最もページ数が多い。ちりめん加工により、フランス語版よりも一回り小さい(約15×19センチ)大和綴じの本で、挿絵はフランス語版と同じ新井芳宗のものである。

このちりめん本には、表紙が2種類あることが

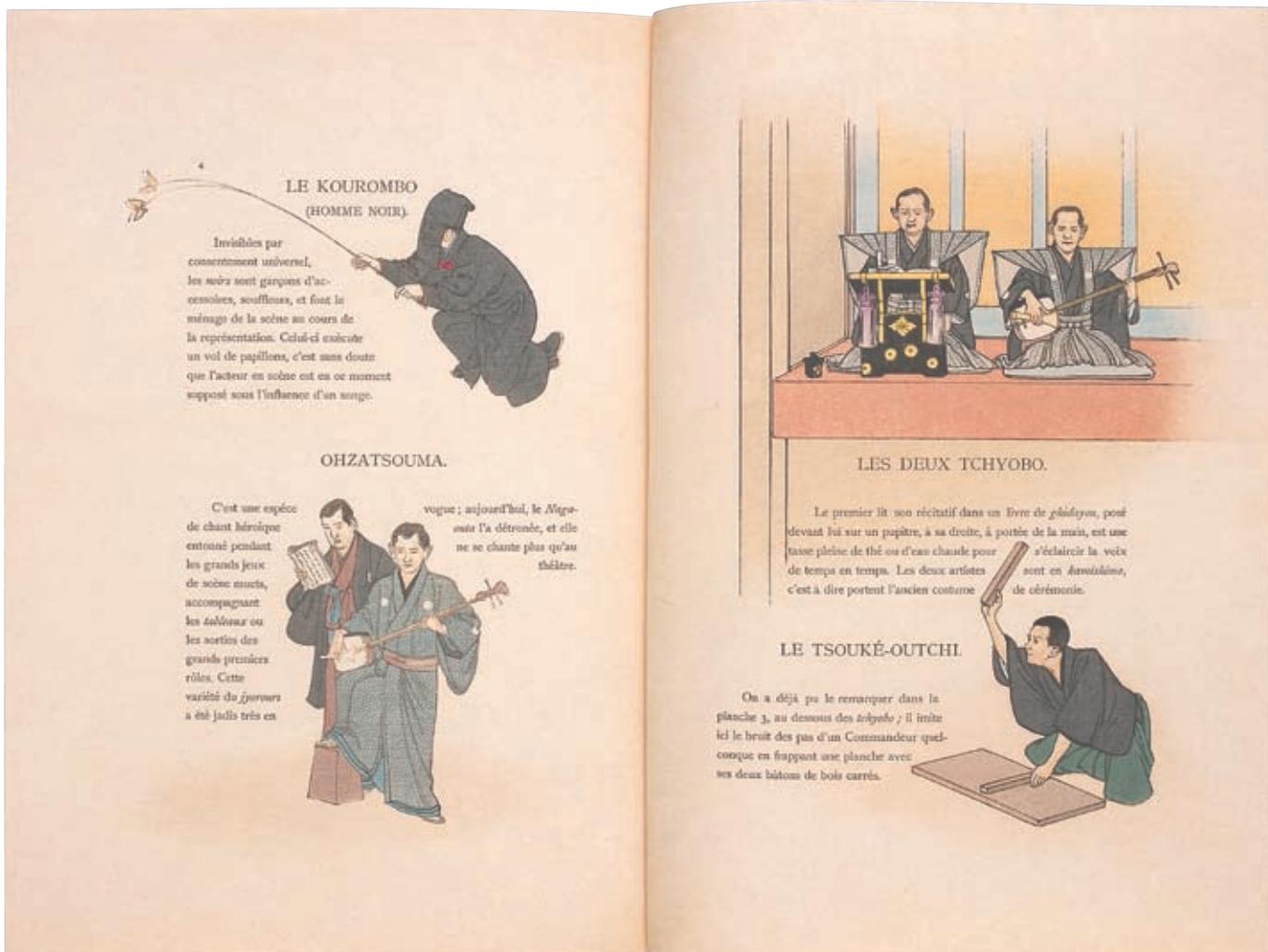
20 石澤 前掲(注2) p.173には「Jules Adam (ジュール・アダンの) *Scènes du théâtre japonais* と題する仏訳」とあるが、*L'école de village* の奥付には「翻譯者 文學博士 カール、フロレンツ」とある。

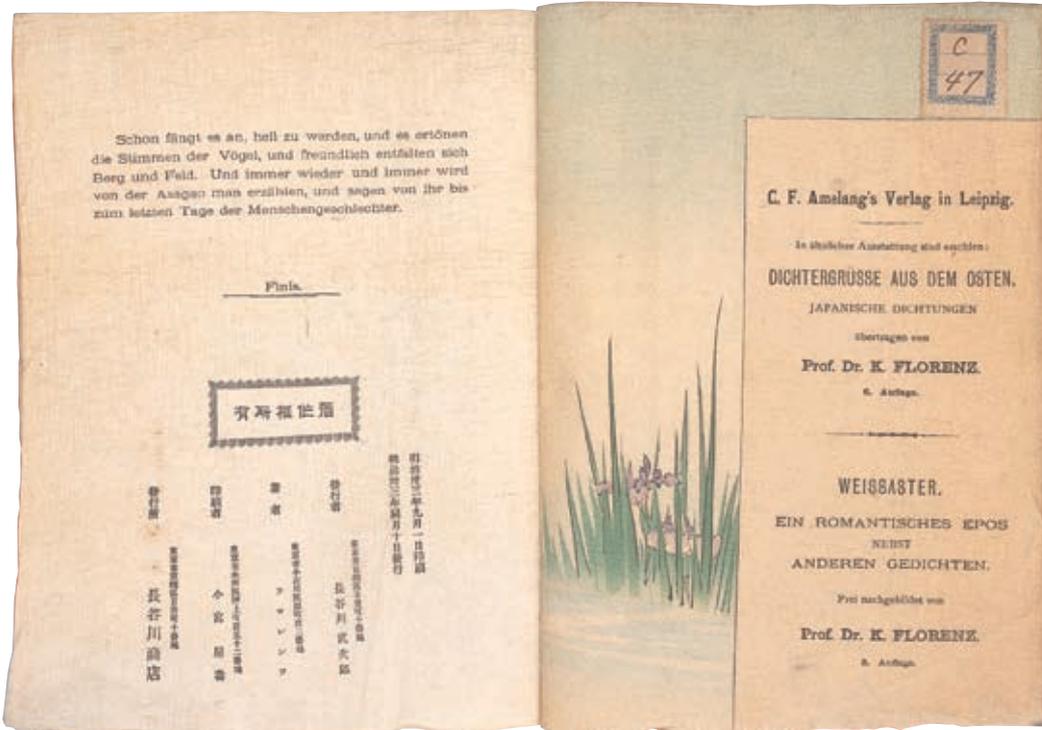
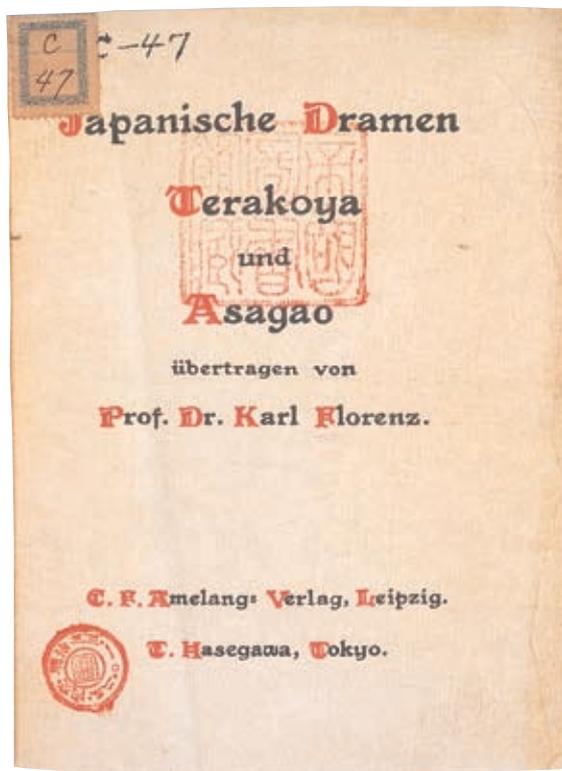
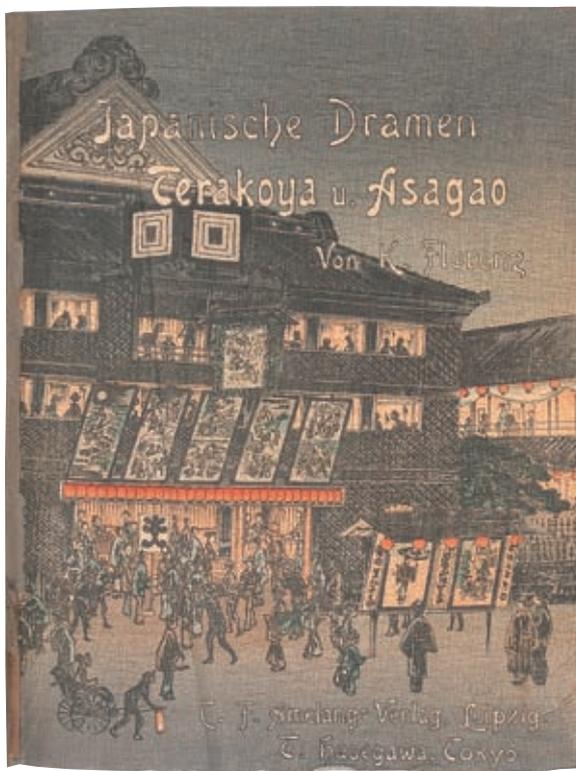
21 『千九百年巴里万国博覧会出品連合協会報告』(巴里万国博覧会出品連合協会残務取扱所 1903) <マイクロフィッシュ請求記号 YDM42200> 出品についてはp.161(氏名が「長谷川武七郎」となっている)、売上金額についてはp.346に記載されている。

22 東京国立文化財研究所美術部編『明治期万国博覧会美術品出品目録』(中央公論美術出版 1997) <請求記号 K3-G53> p.321、357、413

23 Florenz, Karl. *Japanische Dramen : Terakoya und Asagao*. T.Hasegawa, 1900. <マイクロフィッシュ請求記号 YDM109831>

フランス語版『寺子屋』(注15) 巻末の歌舞伎の解説





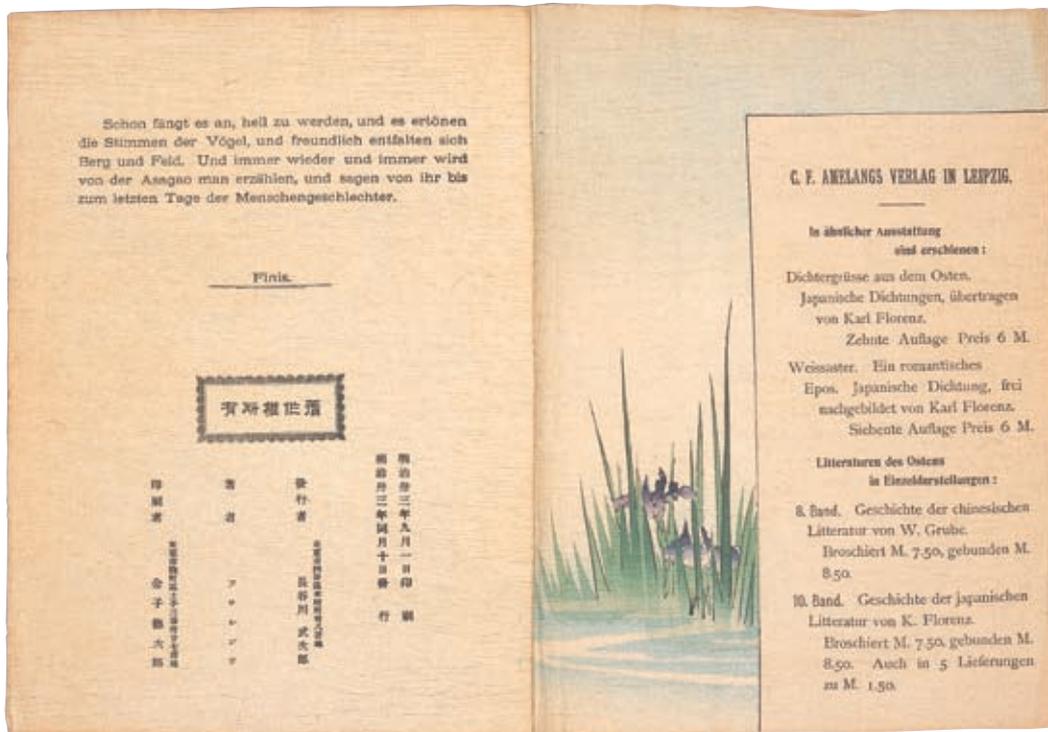
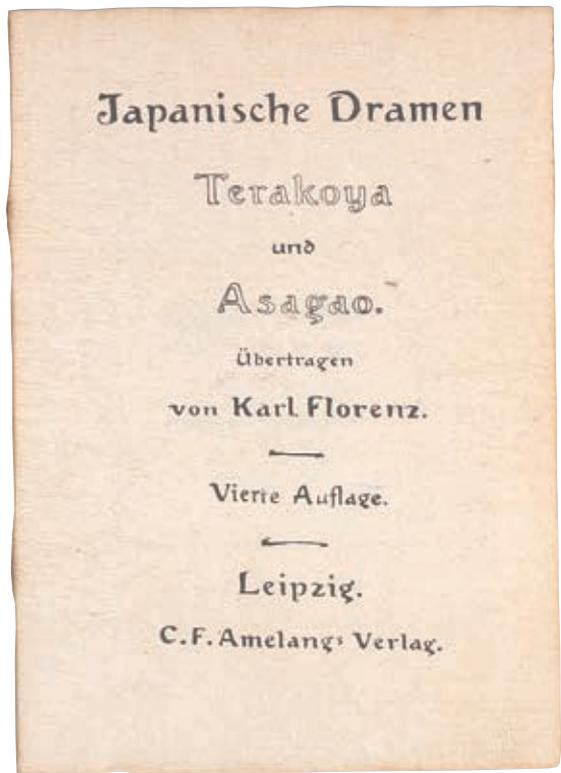
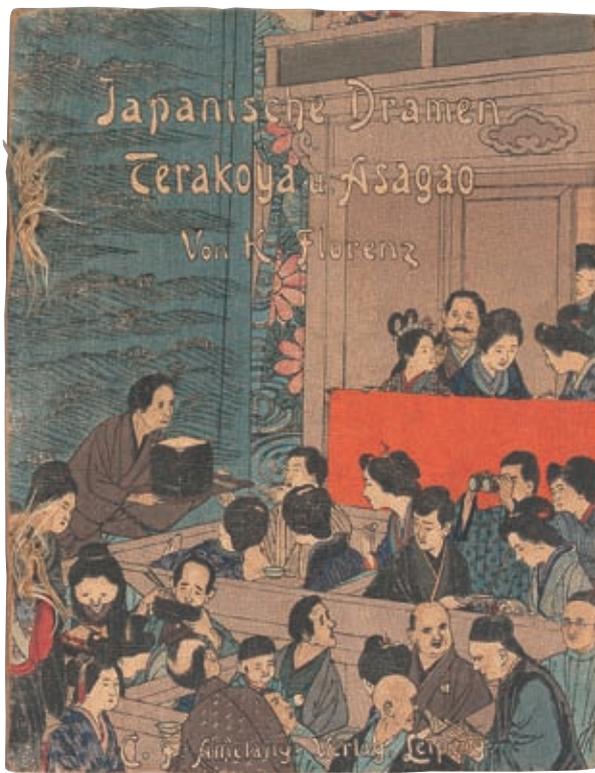
2種類のドイツ版『寺子屋』歌舞伎座外観が表紙の版(本頁)には、表紙および標題紙に“C. F. Amelang Verlag, Leipzig”と“T. Hasegawa, Tokyo”とある。標題紙では、大文字のみ赤が使われている。〈国立国会図書館所蔵〉(注23参照)

一方、歌舞伎座客席が表紙の版(次頁)には、表紙および標題紙に“C. F. Amelangs Verlag, Leipzig”とのみ表示され、標題紙の文字は黒のみで字配りも異なる。〈筆者蔵〉

奥付の発行日付は同一であるが、前者は、発行者が長谷川武次郎、印刷者が小宮屋寿、発売者が長谷川商會とある。一方、後者は、発行者が長谷川武次郎、印刷者が金子徳次郎となっている。

両者ともちりめん本 *Dichtergrüsse aus dem Osten: japanische Dichtungen* と *Weissaster, ein romantisches Epos, nebst anderen Gedichten* の広告が掲載されており、後者にはさらにアーメランク社の刊行物である *Litteraturen des Ostens in Einzeldarstellungen* の8巻と10巻(著者はフロレンツ)の広告が掲載されている。ちりめん本の価格はそれぞれ6マルク、*Litteraturen des Ostens in Einzeldarstellungen* の価格は、仮綴じ本7.5マルク、ハードカバー8.5マルクである。

知られている。1冊は、夜の歌舞伎座の外観と観客が集まってくる様子を描いたものである(上写真)。この絵は、フランス語版では見返しの裏側に使われていたもので、フランス語版の後半の解説の中で、挿絵類にある劇場は東京の歌舞伎座であると説明されている。もう1冊の表紙は歌舞伎座の客席の幕間を描いたもので、棧敷席と升席の観客の様子が生き生きと描かれている(次頁写真)。この絵は、フランス語版ではカバーに使われている。



前者の表紙および標題紙にはアメリク社と長谷川の名前が併記されているが、後者はアメリク社のみが表示されている。奥付の発行日付は同じだが、印刷者が小宮屋寿（前者）、金子徳次郎（後者）と異なり、掲載された広告の体裁も違っている。

これらの違いを勘案すると、表紙の異なる2冊は、日本国内版とドイツ版としてそれぞれ作成され、長谷川弘文社とグリフィス・フェアラン社と

の共同出版と同様に、契約によって、日本国内とドイツ内それぞれで販売されていたものと推察できる。

ここで興味深いのは、ドイツ版の広告にはそれぞれの定価が記入してあることで、頁数の多寡はあるものの、ちりめん本は、ドイツでは学術書に比べてかなり安価で販売されたものと思われる。なお、ドイツ版は、表側には夜の町並み、裏側には和菓子と茶道具を木版多色刷りで描き、象牙の

爪を付けた美しい帙に入れられていた（下写真）²⁴。

4 Terakoyaの波紋

*Terakoya und Asagao*は好評を博し、大正2（1913）年の8版まで刷を重ねた²⁵。

一方で、戯曲としての『寺子屋』もドイツで翻案劇として上演され、さらに同内容のオペラも上演されている（“Terakoya”のほか“Die Dorfschule（村の学校）”や“Das Kirschblütenfest（桜祭）”等のタイトルでも上演されている）²⁶。ヨーロッパにおける歌舞伎の受容については、川上音二郎と貞奴の外国巡業が有名であり、1900年のパリ万国博覧会でも歌舞伎

が上演されているが、この巡業の演目に『寺子屋』はない²⁷。ドイツにおける『寺子屋』の受容には、むしろ、フローレンツの*Terakoya und Asagao*の出版の影響があったのではないか。

インターネット上の世界各国の大規模図書館の総合目録WorldCat²⁸で、第二次世界大戦以前に出版された*Terakoya*を検索したところ、ドイツ語版*Terakoya und Asagao*が各国語へ翻訳されており、さらに各国語の戯曲やオペラの楽譜等も存在することがわかった。この検索結果から日本語の図書やフローレンツの著作を除き、種類、言語、刊行年順に整理すると、『寺子屋』の広がりが見えてくる。

24 日本版に帙があったか否かは確認することができなかった。

25 佐藤 前掲（注8） pp.228-229

26 田中徳一「トク・ベルツによるドイツ歌舞伎『勘平の死』公演（一九三八）のドキュメント」『演劇学論集』（日本演劇学会）（50）2010.春 pp.143-162 <請求記号 Z11-190>

27 芳賀徹ほか編『近代日本の思想と芸術 1』（講座比較文学第3巻 東京大学出版会 1973）<請求記号 KE181-13> pp.320-321には、パリ万博での演目として「人肉質入裁判」「討入曾我」「左甚五郎」「児島高德」「芸妓と武士」が挙げられている。

28 アメリカのOCLC（Online Computer Library Center, Inc.）が維持管理する書誌データベース。OCLCに参加する世界各国の図書館の7千万以上の書誌データと11億2千万件以上の所蔵情報を収録した、世界最大の総合目録である（<http://www.worldcat.org/>）。国立国会図書館の作成した和図書の書誌データも収録されている。

29 Gersdorff, Wolfgang, Freiherr von (1876-1936)

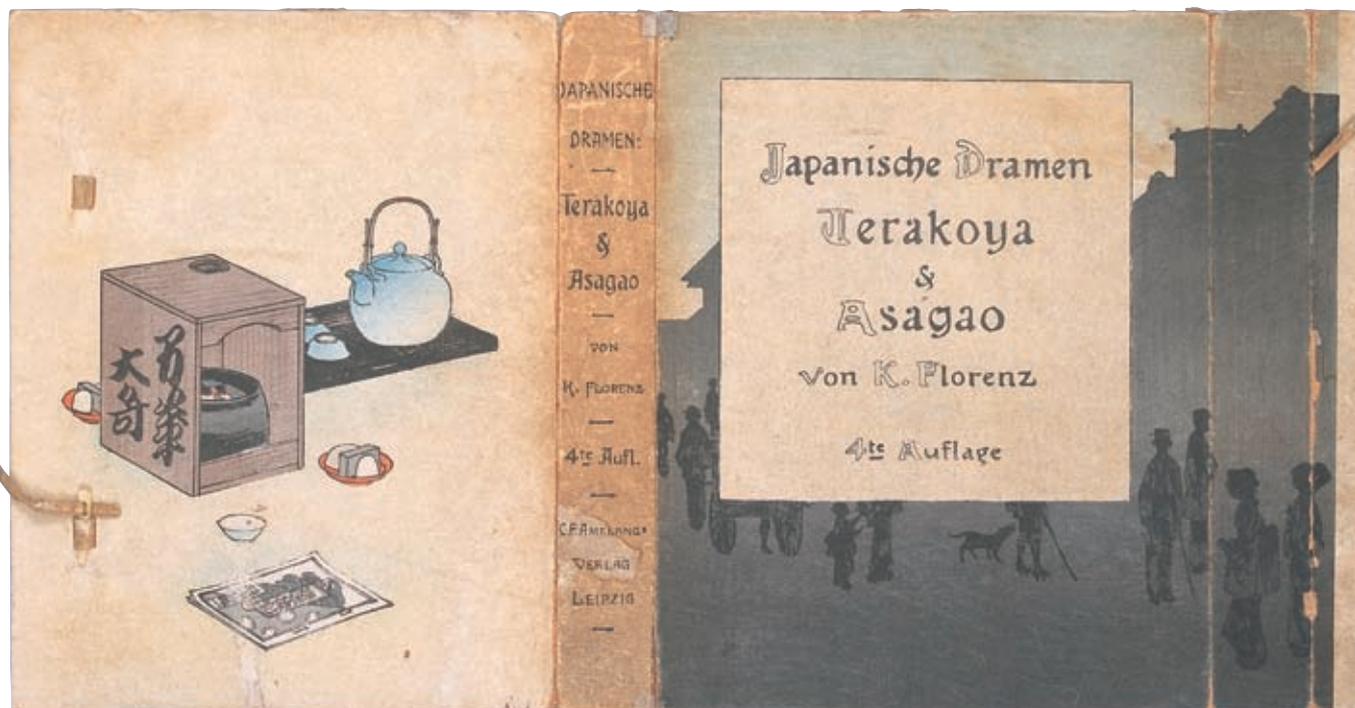
30 演出はマックス・マルターシュタイク（Max Martersteig）。

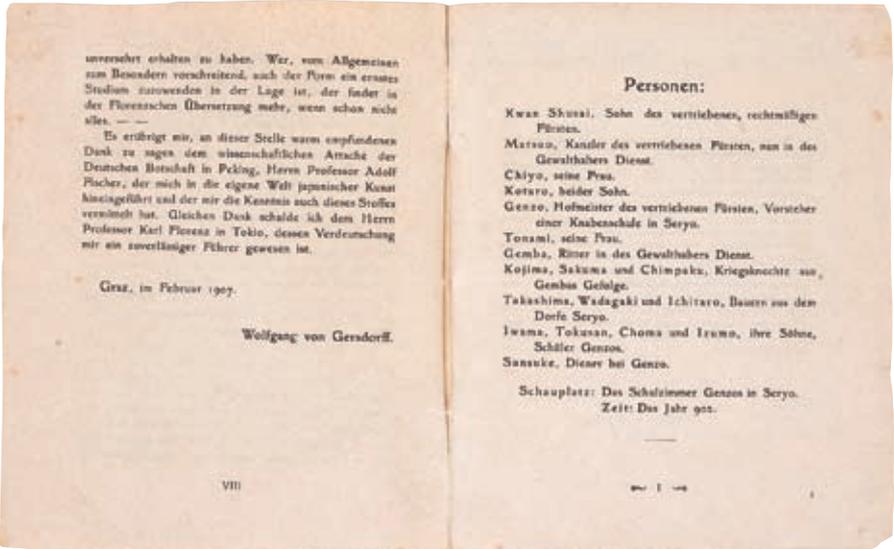
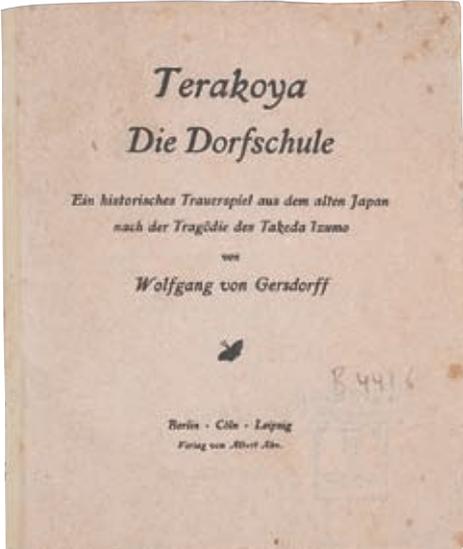
31 Gersdorff, Wolfgang von. *Terakoya = Die Dorfschule : ein historisches Trauerspiel aus dem alten Japan nach der Tragödie des Takeda Izumo*. Verlag von Albert Abn, 1907. viii, 48 p. <ドイツ日本研究所図書室所蔵 Holding number : B04416>

32 原文は“Gleichen Dank schulde ich dem Herrn Professor Karl Florenz in Tokio, dessen Verdeutschung mir ein zuverlässiger Führer gewesen ist.”

33 中村吉蔵「獨逸座の寺子屋劇」『最近欧米劇壇』（博文館 1911）<請求記号 YDM74822>（『近代デジタルライブラリー』で閲覧可能 <http://kindai.ndl.go.jp/infondljp/pid/858252>） pp.307-317

ドイツ版『寺子屋』の帙<筆者蔵>





上：1907年にケルンで“Terakoya”が上演された際の舞台写真。左は小太郎が寺子屋に入門する場面（寺入りの場）、右は松王丸らが寺子屋の子どもたちを改める場面。
 (Theaterwissenschaftliche Sammlung Schloss Wahn, Universität zu Köln (ケルン大学演劇博物館) 提供)。
 下：ケルンでの上演と同時に出版された脚本<ドイツ日本研究所書室所蔵> (注31参照)。
 舞台写真で壁に貼られた習字は、フランス語版(注15)、ドイツ語版(注23)にある、日本語のタイトルを記した部分(4ページ フランス語版巻頭の右頁参照)をアレンジしたものと思われる。

(1) ドイツでの翻案劇

まず、ヴォルフガング・フォン・ゲルスドルフ²⁹ 翻案の“Terakoya : die Dorfschule”が、1907年2月22日にケルン市立劇場 (Kölner Schauspielhaus) で初演され (上写真)³⁰、同時に脚本が出版された (下写真)³¹。緒言の最後に、フローレンツの翻訳に対する謝辞が「…同様の恩恵を東京のカール・

フローレンツ教授から受けており、教授のドイツ語訳は私にとって信頼できる導き手となった」³²と記されていて、ゲルスドルフが、フローレンツの翻訳を参考にしたことがわかる。

その後、ベルリンに滞在していた劇作家中村吉蔵が、明治41 (1908) 年10月のベルリンでの「寺子屋」公演について書いている³³。中村は劇場の

『寺子屋』のあらすじ

『寺子屋』は、菅原道真の失脚事件に材をとった歌舞伎『菅原授手習鑑』の四段目 (八幕目) であるが、独立して演じられることが多い。

菅丞相 (菅原道真) の旧臣武部源蔵は寺子屋を営んでいる。源蔵は丞相の子菅秀才を我が子としてかくまっていたが、左大臣藤原時平に知られ、秀才の首を出すよう命じられる。源蔵は悩んだ末 (「せまじきものは宮仕え」の台詞が有名)、時平の家来である松王丸に、その日入門したばかりの小太郎の首を代わりに差し出す。松王丸はその首を秀才と認めて立ち去る。しかし、小太郎は実は松王丸の息子であったことが、松王丸から明かされる。松王丸は菅家に仕える家柄の生まれで、丞相の恩に報いるために、自らの息子を源蔵の寺子屋に入門させ、秀才の身代わりとしたのであった。人々は小太郎の野辺送りを営む。

フローレンツは、義太夫狂言である『寺子屋』の竹本 (歌舞伎専門の義太夫節) の部分を必要に応じて台詞に取り入れ、歌舞伎ではなく、西洋の演劇の脚本形式に変えてかなり自由に訳したことを、ドイツ語版 (注23) の序言で述べている。

支配人から大使館経由で「可成日本の風俗、人情にそむかないように」演じたいと頼まれ、ラフカディオ・ハーンの小説の翻案劇“Kimiko”と“Terakoya : die Dorfschule”の稽古を見学して、刀のさし方等のアドバイスをを行ったという。中村によれば、“Terakoya”は、マックス・ラインハルトが監督する、当時のベルリンでも一流の劇場である独逸座 (Deutsches Theater) の特別劇場で上演された。特別劇場は普通劇場に比べてやや小さく、座席数は300前後であるが、観劇料金は普通劇場の3倍以上で、「客種も上等の者^{ほか}許り」、古代ギリシア劇から最新のバーナード・ショウやトルストイまで様々な演目が演じられ、日本演劇も「研究の爲めに」演じられたそうである。「自然的の藝風」で演じられていたという“Terakoya”については「フロレンツ氏の獨譯が嘗て出版されてある」として、当時の新聞の評を次のように紹介している。

寺子屋劇中の『子の犠牲』をアブラハムが神の為に其子ヤコブを捧げ、アガメンノンがその娘を犠牲に供へたのと比較し、此の宗教的の方のは、神がその子の犠牲を止めさせなかったら甚だしい不自然になるが『寺子屋』の方は、その間の両親の煩悶苦悩がよく観客

に訴へられて、眞に悲劇的であると評し [略] 一體に好評であった。[略] 大分人気がある様だ、書肆の店頭には『寺子屋』や『きみ子』が新しく賣出されてゐる。

“Terakoya : die Dorfschule” と “Kimiko” は、その後、1926年に出版されたゲルスドルフによる戯曲集³⁴に収録された。ベルリンでの「寺子屋」の公演は9回であったが、その後、地方では長年にわたって上演されたといわれている³⁵。

さらに、1927年には、詩人として知られるクラブント³⁶が“Terakoya”を翻案した“Das Kirschblütenfest”が、ハンブルクで上演された³⁷。“Das Kirschblütenfest”は1931年、クラブントの戯曲集³⁸に収録、出版されている。

(2) さまざまな言語への翻訳

前述のWorldCatで所在を確認できるかぎりでも、*Terakoya*は様々な言語に翻訳され、出版されている。1904年にはポーランド語に翻訳されて上演³⁹、1909年には、欧米で「まれに見る演劇界の才人」と評価されながら後に国家反逆罪で死刑になったメイエルホリド⁴⁰によりロシア語に翻訳され、上演された⁴¹。続いて1911年にチェコ語訳⁴²、1918年にドイツ語版を底本としたス

34 Gersdorff, Wolfgang von. *Japanische Dramen, für die deutsche Bühne bearbeitet*. E. Diederichs, 1926 <請求記号 Da-87>

35 サン・キョン・リー著 田中徳一訳『東西演劇の出会い 能、歌舞伎の西洋演劇への影響』（新読書社 1993）<請求記号 KD424-E5> pp.140-141

36 Klabund (1890-1928 本名はHenschke, Alfred)

37 田中徳一「ドイツ・オーストリア・ガリチアにおける『寺子屋』劇需要の概観」日本比較文学会編『越境する言の葉 世界と出会う日本文学 日本比較文学会創立六〇周年記念論集』（彩流社 2011）pp.261-273 <請求記号 KG12-J77>

38 Klabund. *Japanische Dichtungen : das Kirschblütenfest : die Geisha O-Sen*. Phaidon Verlag, 1931. 国立国会図書館ではGerman books on Japan 1477 to 1945 (K.G. Saur) <マイクロフィッシュ請求記号 YD5-B80>に収録されたものを所蔵している (pt.2/1.

Literature; Instalment 1 :140)。

39 出版は1907年。Zulawski, Jerzy. *Terakoya czyli Wiejska szkółka : historyczny dramat japoński w jednym akcie*. Nakł. Księgarni H. Altenberga, 1907. <OCLC number: 69532374> ポーランドでの上演については、田中 前掲 (注37) 参照。

40 Всéволод Эмильевич Мейерхольд (Meyerhold) (1874-1940)

41 エドワード・ブローン著 浦雅春、伊藤愉訳『メイエルホリド演劇の革命』（水声社 2008）<請求記号 KD562-J6> p.126 演出はヴェニヤミン・カザンスキー。この台本のデジタル画像をコーネル大学図書館が提供している。Terakoya, Russian translation. (出版者、出版年不明) <OCLC number: 728039544>

42 *Dvě japonská dramata*. Alois Hynek, 1911. <チェコ国立図書館所蔵 OCLC number: 85475708>

ウェーデン語訳⁴³が出版されている。

英語版としては、1916年に、日本の演劇史の解説書の中で、歌舞伎の台本の例として“The pine-tree (松)”が掲載された⁴⁴。この英語版は、1916年11月にワシントン・スクエア・プレイヤーズ(Washington Square Players)により“Bushido”というタイトルで上演され、好評を博した⁴⁵。

さらに、1921年には、戯曲集*Little theater classics*の第3巻に“Bushido”が収録され、出版された⁴⁶。これは、フローレンツの*L'école de village*の台本部分を翻訳したもので、舞台や衣裳についても、挿絵やフローレンツの記述を元にした詳細な解説が附され、新井芳宗の挿絵2点も白黒で転載されている。*Little theater classics*は、我が国では所蔵する図書館が少ないものの、WorldCatで検索できる限りでも、アメリカを中心に300以上の大学図書館、公共図書館が所蔵している。

“The pine-tree”は、日本に逆輸入され、昭和4(1929)年9月に坂東寿三郎らにより大阪の浪花座で「マツ」の題名で、10月には友田恭介らにより東京の本郷座で元どおり「テラコヤ」の題名で上演された⁴⁷。

43 Ronimus, Rafael (trans.). *Terakoya, eller Byskolan : historiskt sorgespel i en akt*. Lilius & Hertzberg, distr. 1911. <スウェーデン国立図書館所蔵 OCLC number: 58218312>

44 Marcus, M.C. *The pine-tree (Matsu) : a drama, adapted from the Japanese*. Iris Publ. Co., [1916] <請求記号 Ba-661>

45 Japanese tragedy admirably staged. *New York Times*. 1916.11.14 ただし、中村哲郎著『西洋人の歌舞伎発見』(劇書房1982) <請求記号 KD484-39> p.251には「1917年6月」とある。

46 Eliot, Samuel A., Jr. *Little theater classics, v.3* Little, Brown, and Co., 1921 (Internet Archiveで閲覧可能 <http://www.archive.org/details/littletheatercl00eliogooq>)

47 中村 前掲(注45) pp.253-254

48 Orff, Carl (1895-1982)

フローレンツは どの『寺子屋』を 翻訳したか

『菅原伝授手習鑑』は人気が高かったため、浄瑠璃台本のほかに、歌舞伎の脚本も多数出版された。

フローレンツが何を底本としたのか、文献からはわからないが、フローレンツの翻訳と浄瑠璃台本を比較すると、通常の浄瑠璃台本にはない台詞が見られる。小太郎の母千代が息子を寺子屋に連れて来て、別れる場面の最後で、千代が扇を忘れたふりをするという箇所である。同様の演出が、明治28年に大阪で出版された魁竜玉(阪田玉助)著『演劇脚本 [第1冊]』*にみられる。ただし、阪田玉助版には、千代の「もうしここに私の扇がありませんか。……おお、扇はここにありました。」という台詞があるが、フローレンツの翻訳では、尋ねる千代自身の手には扇があることに戸波が気付く。これがフローレンツの翻案の結果なのか、それとも、ほかにこのような演出の脚本が存在したのかは、今となっては不明である。

*『演劇脚本』(梅原忠蔵 1895) <請求記号 YDM88428> 『近代デジタルライブラリー』で閲覧可能 (<http://kindai.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/876857>)

(3) オペラ作品とその上演

「寺子屋」のオペラ作品としては、カール・オルフ⁴⁸の“Gisei – Das Opfer (犠牲)”と、フェリックス・ヴァインガルトナー⁴⁹の作品64 “Die Dorfschule”がある⁵⁰。

オルフの“Gisei – Das Opfer”は、日本の文楽や能に興味を持っていたとされる無名時代の1913年に書かれ、オルフ自身が生前は上演を禁じたため、前述のように、2010年2月まで上演されなかった⁵¹。

一方、ヴァインガルトナーの“Die Dorfschule”

49 Weingartner, Felix (1863-1942) 1908年から1927年までウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の常任指揮者を務め、ベートーベンの名指揮者として名高く、日本でも非常に人気があった。後に来日している。

50 二人の作曲家が同時代に同じテーマでオペラを作曲することはまれであるため、この二つの作品を比較した研究がある。フローレンツの原作とオペラの歌詞の比較も行い、作曲の際に、歌詞が変えられた箇所を指摘している。Revers, Peter. *Das Fremde und das Vertraute : Studien zur Musiktheoretischen und Musikdramatischen Ostasienrezeption*. Franz Steiner, 1997. (Beihefte zum Archiv für Musikwissenschaft ; Bd. 41) <請求記号 KD141-A16>

51 楽譜は2008年に出版されている。*Gisei das Opfer : Musikdrama, op. 20 (1913)*. Schott, 2008. <ドイツ国立図書館所蔵 OCLC number: 723913930>



カール・オルフ肖像
『Orffとともに 理論と実践；
25年の歩み』（武蔵野音楽学
園 1990）から転載

は、1920年5月13日に初演された。自伝⁵²には、「オペラ『村の学校』は非常な成功を取めた」との記述がある。このオペラの楽譜は、1919年にドイツ語版（下写真）が、1920年にはイタリア語版が出版された⁵³。自伝によれば、1922年5月からのウィーン・フィルハーモニー南米公演では、「村の学校」は、ブエノスアイレス、リオデジャネイロ等で好評に迎えられ、翌1925年のスペイン、バルセロナ公演では、「才能の士であったカタロニア人のホオキン・ペエニャ」により、台詞がスペイン語に翻訳されて出版された⁵⁴と書かれている⁵⁵。

なお、2010年の“Gisei – Das Opfer”の公演は好評であったらしく、2012年5月、ベルリン・ドイツ・オペラ（Deutsche Oper Berlin）では、オ



Die Dorfschule / Oper in 1 Akt nach dem altjapanischen Drama "Terakoya" / op. 64. Copyright 1919 by Universal Edition A.G., Wien
www.universaledition.com

52 ワインガルトナア著、大田黒元雄訳『闘争の一生 ワインガルトナア自伝』（第一書房 1940）〈請求記号 773-81〉 p.390

53 ドイツ語版は、Die Dorfschule : Oper in einem Akt nach dem altjapanischen Drama "Terakoya". Universal-Ed. c1919. 国立国会図書館ではGerman books on Japan 1477 to 1945 (K.G. Saur) <マイクロフィッシュ請求記号 YD5-B80>に収録されたものを所蔵している (pt. 2/2. Music and Theatre ; Instalment 2 ; 50)。 (pt.2/1. Literature; Instalment 1 ;140)。イタリア語版は、La scuola del villaggio Opera in 1 atto sull'antico dramma giapponese "Terakoya"

ルフとヴァインガルトナーの作品がコンサート・ヴァージョンで上演される予定である。

5 長谷川武次郎の功績

長谷川武次郎のTerakoyaは、海を越えて日本文化を世界に伝えるとともに、多くの芸術家を刺激して、新しい作品をも生み出す役割を果たした。

箕輪成男は、国際出版の種類を、その機能面から、「出版物貿易」「出版物の寄贈・文化交流」「翻訳出版」「外文出版」「多国籍出版」に区分している⁵⁶。明治10年代の半ばから明治40年前後にかけて行われた長谷川の出版は、「外国語で出版することによる海外発信」である「外文出版」に相当する。現存する長谷川弘文社の出版物の多くは、日本の昔話や文学、風俗等を外国語で表現した挿絵本であるが、本の内容とともに、浮世絵風の木版画の挿絵の美しさとちりめん紙の珍しさが欧米の人々に愛されて、世界に広まった。なお、ちりめん紙を作る技術は、製紙加工の技術としても外国でも注目され、解説書がドイツで出版され、英訳、さらに日本語訳が工芸学会から出版されている⁵⁷。

日本国内においては、長谷川は、児童書としてのちりめん本の出版者としてのみ語られることが多い。確かに長谷川が子どものために「日本昔噺シリーズ」を出版したことは事実であるが、フローレンツの一連の翻訳作品や、Images japonaisesをはじめとする出版が日本の文化を世界に伝えた

op. 64. Universal-Edition 1922 <ドイツ国立図書館所蔵 OCLC number: 72382859>

54 Pena, Joaquín. L'escola del poblet : opera en un acte sobre l'antic drama japonès 'Terakoya'. 出版者不明 1925. <バリエードリード大学図書館所蔵 OCLC number: 629836100>のデータがある。

55 ワインガルトナア 前掲（注52） p.423

功績には、むしろ「卓越した (preeminent) 出版者」⁵⁸ という形容がふさわしいように思える。日清戦争のさなかに、当時写真に押されて斜陽の道をたどっていた木版画の市場が、戦争画の爆発的なヒットにより一時的に潤った時期にも、長谷川は戦勝を祝う版画を一組作製したのみで、その視線は、常に外国に向けられていた⁵⁹。

日本で最初の国際出版が、近代的な会社組織によるものではなく、欧文の書き手であるお雇い外国人と、絵師や木版の彫師、摺師を組織した、いわば、江戸の本屋と共通する一人の個人出版者により行われ、諸外国にきわめて大きな影響をもたらしたことは非常に興味深い。ジャポニズムの流行により浮世絵を見慣れ、歌舞伎の海外公演に目を見張った欧米の人々の目には、芸術性の高い挿絵の入った長谷川の *Terakoya* は、絵と文字で伝えられる本物の歌舞伎、「武士道」の世界であり、クール・ジャパンの発信として受け止められたのではないか。

長谷川武次郎については、ラフカディオ・ハーンから長谷川やケリー & ウォルシュ社に宛てた書簡が公開されている⁶⁰のみであるが、長谷川と外国の出版社との間の書簡類が公開されれば、明治期の海外出版についての貴重な資料となるものと思われる。

おわりに

国立国会図書館は、国立図書館として日本に關

する資料を収集している。日本語から外国語への翻訳書は専門書誌が出版され、研究書も多いが、それらの図書が出版されたことにより、明治期の日本の文化が諸外国でどのように伝播したのかについては、明らかになっていないことが多い。WorldCatにより世界各国の図書館の蔵書目録が横断的に検索できるようになり、ヴァインガルトナーのオペラのスペイン語版脚本のように、出版されたことが推測できても、タイトル等が不明であった文献の書誌事項や所在情報を容易に確認することが可能になったことは、研究者にとって大きな前進であろう。

最後に、貴重な図書の撮影を許可して下さったドイツ日本研究所図書室の堀越葉子氏、綿密な調査により当時の写真を見つけ出して下さったベルリン国立図書館の Ursula Flache 氏、写真を提供いただいたケルン大学演劇博物館、書誌事項等の確認を手伝って下さったパリ日本文化会館図書館の杉田千里氏、東洋ギメ美術館図書館の長谷川正子氏、ストックホルム大学アジア図書館の倉増信子氏、マサチューセッツ大学図書館の Sharon Domier 氏をはじめ、ご協力いただいた内外の司書の方々と諸機関に心からの感謝を表して結びの言葉としたい。図書館司書の協力は、インターネットにもまさる大きな力であると実感している。

(おおつか ななえ 収集書誌部主任司書)

56 箕輪成男著『出版学序説』(日本エディタースクール出版部 1997) <請求記号 UE11-G12> pp. 181-185

57 Rein, J.J. *Japan nach Reisen und Studien im Auftrage der Königlich Preussischen Regierung dargestellt*. W. Engelmann, 1881-1886. <請求記号 A-89> 英訳は、*The industries of Japan : together with an account of its agriculture, forestry, arts, and commerce*. Hodder and Stoughton, 1889. <請求記号 A-88> 日本語訳は、ヨハネス・ライン著、久米康生訳『和紙論』【日本産業誌】第2巻より【工芸学会 1988】 <請求記号 PA477-E11>。そのほか、

長谷川 前掲(注1)で、Netto, C. *Papier-Schmetterlinge aus Japan*. T.O. Weigel, 1888. <請求記号 915.2-N475p> が紹介されている。

58 Sharf 前掲(注3)のタイトルから。

59 Sharf 前掲(注3) p.22

60 Collected and edited by Sanki Ichikawa. *Some new letters and writings of Lafcadio Hearn*. (再版) Kenkyusha, 1950. <請求記号 928.1-H436>

新しい統合検索サービス

国立国会図書館サーチ

国立国会図書館は、平成22年8月に「国立国会図書館サーチ（開発版）」を公開しました。これは、国立国会図書館を含む図書館、公文書館、美術館・博物館、学術研究機関等の目録データベースやデジタルコンテンツをまとめて検索することを目指したサービスです。

サービス名称に「開発版」とあるように、まだ完成したサービスではありません。皆様からのご意見をもとに改善を重ねていき、平成24年1月に本格的にサービスを開始します。



<http://iss.ndl.go.jp/> 国立国会図書館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>) > 電子図書館

1 何を探せるか

国立国会図書館は、納本制度に基づき、図書、雑誌・新聞、CD・DVDなど、国内の出版物を広く収集しています。これら収集した出版物等を必要に応じて探し出せるよう、正確な目録データを作成し、平成8年からインターネットを通じて提供しています。雑誌に収録された論文・記事については「雑誌記事索引」を作成し、タイトル、著者、

キーワード等から検索できるようにしています。さらに、国の中央図書館として、平成10年から国内の都道府県立図書館・政令指定都市立図書館の蔵書をまとめて検索できる「国立国会図書館総合目録ネットワーク」、平成12年から国内7機関の児童書を検索できる「児童書総合目録」、平成15年から「全国新聞総合目録」の提供を開始しました。また、提供するデジタルコンテンツも豊富になっ

てきています。国立国会図書館は、蔵書のデジタル化を進め、利用による原本の劣化を避けるとともに、よりよい電子図書館サービスの構築を目指しています。平成22年には国等の公的機関が発信するインターネット情報の本格的な収集を開始し、平成23年には「歴史的音源」の提供を開始しました。

一方、インターネット上の目録データベースやデジタルコンテンツは、図書館をはじめ、類縁機関である文書館、美術館・博物館、学術研究機関等でも充実してきています。国立国会図書館は、平成19年から国内のデジタルコンテンツをまとめて検索できるシステム「国立国会図書館デジタルアーカイブポータル」(PORTA)を提供しています。

「国立国会図書館サーチ」では、情報の種類や所蔵機関を意識することなく、上記を含めた様々な内容・形態の情報・文献を一度の検索で探すことができます。

検索の対象は、大学図書館、専門図書館、国立情報学研究所、国立公文書館、国立美術館、民間の電子書籍サイトデータベースのほか、国立国会図書館の維持・管理するデータベースのうち、蔵書目録、各種総合目録、デジタルコンテンツ、調べ物に役立つ情報(目次情報、専門主題に関するデータベース、レファレンス・サービスの事例等)で、平成23年6月現在、国立国会図書館を含む23機関、42種類のデータベースの約6千7百万件のデータを検索することができます。なお、国立国会図書館総合目

録ネットワーク、児童書総合目録、全国新聞総合目録とPORTAは、平成23年12月末にそれぞれのサービスを終了し、国立国会図書館サーチに統合します。

2 どのように探せるか

膨大な情報・文献の中から必要なものを迅速に見つけ出せるように、国立国会図書館サーチでは様々な工夫を凝らしています。携帯電話、スマートフォンからもご利用になれます。

■検索支援機能

簡易検索画面の検索ボックスにキーワードを入力すると、入力した語で始まるキーワード候補が表示されます。また、目次情報や文献のテキスト・データ(データがあるもののみ)を対象とした検索も可能です。

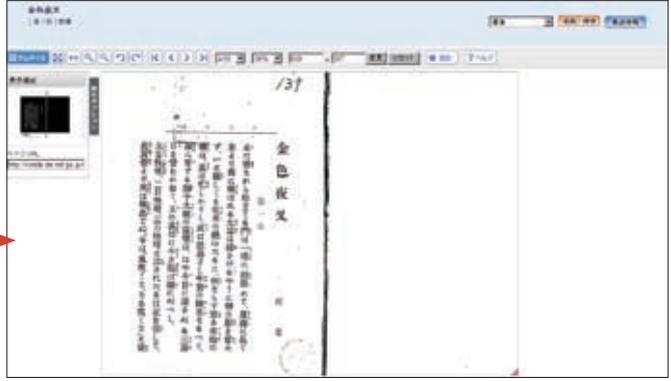
■多言語対応・翻訳機能

国立国会図書館は、中国国家図書館および韓国国立中央図書館と協力し、日中韓三か国で連携し



英語版、中国語版、韓国語版トップページ

	金色夜叉 【提供元  】 尾崎紅葉 著 日本文芸社 1948 国立国会図書館蔵書	
	金色夜叉 中 【提供元  】 尾崎紅葉 著 フロンティアニゼン 2005 (フロンティア文庫 ; 72) 国立国会図書館蔵書	
	金色夜叉 [第1冊] 前編 【提供元  】 尾崎紅葉著,尾崎, 紅葉(1867-1903) 国立国会図書館 近代デジタルライブラリー	
	金色夜叉 : 脚本 【提供元  】 尾崎紅葉 作,小栗風葉 脚色 春陽堂 1917 国立国会図書館蔵書	
	金色夜叉 [第2冊] 中編 【提供元  】 尾崎紅葉著,尾崎, 紅葉(1867-1903) 国立国会図書館 近代デジタルライブラリー	
	金色夜叉 : 尾崎紅葉の人と作品 【提供元  】 ダイジェスト・シリーズ刊行会 編 シブ社 1950 (ダイジェスト・シリーズ ; 第40) 国立国会図書館蔵書	
	金色夜叉 【提供元  】 尾崎紅葉 著 河出書房 1955 (河出文庫) 国立国会図書館蔵書	
	金色夜叉 【提供元  】 尾崎紅葉著,小栗風葉増補脚色,尾崎, 紅葉(1867-1903),小栗, 風葉 (1875-1926) 国立国会図書館 近代デジタルライブラリー	
	金色夜叉 下 【提供元  】 尾崎紅葉 著 フロンティアニゼン 2005 (フロンティア文庫 ; 73) 国立国会図書館蔵書	
	金色夜叉 【提供元  】 尾崎 紅葉 新潮文庫, 新潮社 青空文庫	
	金色夜叉 上 【提供元  】 尾崎紅葉 著 フロンティアニゼン 2005 (フロンティア文庫 ; 71) 国立国会図書館蔵書	
閉じる ◀ 1 2 ▶		
	新金色夜叉 【提供元  】 横瀬政史 著 大正堂 1910 国立国会図書館蔵書	
	新金色夜叉 【提供元  】 横瀬政史著,田中, 貞太郎(1880-1941) 国立国会図書館 近代デジタルライブラリー	
	女金色夜叉 【提供元  】 磯原謙著 樋口隆文館 1925 国立国会図書館蔵書	
	紅葉と繪花 : 『金色夜叉』と『不知火』 【提供元  】 佐藤, 朝男 文学教育研究者集団 1997-02-25 CNii	
	『金色夜叉』と熱海 : 口絵の力と現在 【提供元  】 津嶋, 圭二,セザキ, ケイジ,Sezaki, Keiji 広島大学国語国文学会 JAIRO	
	晶子の百合と『金色夜叉』 【提供元  】 大野, 和 愛知県立看護大学 1993-12-25 CNii	
	『金色夜叉』本文の国語学的研究 : 前編・中編について 【提供元  】 北澤, 尚, 裕 東京学芸大学 2008-01-00 CNii	
	『金色夜叉』の一素材 : 宮のモデル 【提供元  】 土佐, 亨 福岡女子大学 1970-12-10 CNii	
	尾崎紅葉『金色夜叉』戯曲化の変遷 【提供元  】 赤井, 紀美 日本女子大学 2008-03-15 CNii	
	金色夜叉 : 成立の周辺と文章表現 【提供元  】 小沢, 穂 信州豊南短期大学 1988-03-01 CNii	
	『金色夜叉』本文の国語学的研究II : 後編・終編・終々について 【提供元  】 北澤, 尚, 裕 東京学芸大学 2009-01-00 CNii	
	『金色夜叉』私論 : その経済小説性について(いわき短期大学創立10周年記念号) 【提供元  】 中島, 礼子 東日本国短大学 1976-11-00 CNii	



検索結果一覧(左)と検索結果から得られる情報(右)
この例では、検索結果から、「青空文庫」(<http://www.aozora.gr.jp/>)のテキスト・データ、「近代デジタルライブラリー」の本文画像を閲覧できるほか、詳細表示画面で所蔵する図書館、オンライン書店が案内される。関連する雑誌記事・論文もあわせて表示される。

た電子図書館の構築を進めています。国立国会図書館サーチでは、英語・中国語・韓国語の各言語版画面のほか、日本語と英語、中国語、韓国語の翻訳検索・翻訳表示機能を備えています。

■検索結果のわかりやすい表示

検索結果では、書籍とデジタルコンテンツなど、媒体が異なる同じ内容の文献・情報をグループ化して表示します。グループの中から、書籍、テキスト・データ、デジタル画像など、目的に合ったものを選ぶことができます。

■再検索・絞り込み機能

検索結果の一覧とともに、検索結果をさらに絞

り込むための手がかり（資料種別、所蔵館、出版年等）を表示します。また、検索結果から関連キーワード、著者名キーワード等を提示するので、それらを利用して再検索することもできます。

■入手手段の案内

情報・文献の入手手段を可能なかぎりご案内します。デジタルコンテンツへのリンクはもちろんのこと、「見る・借りる」には、その情報・文献の所蔵機関が表示されます。設定画面で「よく利用する図書館」を登録しておくと、登録した図書館の所蔵状況も表示します。また、オンライン書店サイトにジャンプすることもできます。

総合目録ネットワークで提供していた図書館間相互貸借（ILL）の申込機能も備えています（総合目録ネットワーク事業参加館向け）。

■検索結果を活用するための機能

Twitter、はてなブックマーク等外部サービスへの投稿機能、新着情報や特定のキーワードによる検索結果をRSS配信する機能等、検索結果を

活用するための様々な機能を備えています。

■新着図書情報の提供

国立国会図書館が受け入れた和図書の簡易な書誌データを受入れから数日後に検索できます。新着図書情報のデータは、各種のシステムで活用が可能なTSV形式やRSS形式でも提供しています。

3 今後の展開

国立国会図書館サーチは、平成24年1月に本格的にサービスを開始します。本格サービスの開始までに、これまで提供してきた機能の一部を改善するとともに、児童向け画面の提供、視覚障害者等向け資料の検索機能の提供など、新機能を追加する予定です。また、ログイン機能を一元化し、国立国会図書館サーチにログインをすれば、検索結果からNDL-OPACで申し込みができるようになります。検索できる対象も順次拡大する予定です。平成24年1月以降も、ニーズをふまえ、先進的な検索技術や館内外の実証実験の成果を取り入れるなど、継続的に機能拡張を図っていきます。

国立国会図書館サーチは、国立国会図書館がこれまで蓄積してきた情報を最大限に活用し、全国の学術研究機関等が持つ豊富な「知」への入り口となることを目指しています。ぜひご利用ください。



NDL新着図書情報

※NDL新着図書情報(テキスト版)
このページでは、国立国会図書館に納入された国内刊行図書の基本書誌情報、及び区別/形式的アクセスファイルを提供しています。
※検索結果の詳細は以下のページをご覧ください。
NDL新着図書情報について | 収録開始 | 収録終了

テキスト版以外に、次のサービスも行っていますので、ご覧ください。
●RSS形式のNDL新着図書情報RSS
●API(OGA)形式の「国立国会図書館サーチ」検索するOGA-API

ダウンロードファイル	収録書誌データ件数
2011年7月4日分	287
2011年7月11日分	327
2011年6月30日分	393
2011年6月23日分	394

新着図書情報

(総務部情報システム課)

中国国家図書館の 国家機関へのサービス

平成22年11月23日から11月30日まで、国立国会図書館は、中国国家図書館との第29回業務交流を実施しました。今回は、当館から5名の代表団が訪中し、立法府・行政府に対するサービスについて意見交換を行いました。

業務交流で報告された内容から、近年急速に拡充が進む中国国家図書館の立法・政策立案を補佐するサービスについてご紹介します。



中国国家図書館 本館第二期館

中国国家図書館

中国国家図書館は、清朝末期の1909年に建設が始まった京師図書館以来、今日まで百年有余の歴史を持っています。創立以来、2度の名称変更を経て、1998年に中国国家図書館と改称され現在に至ります。中華人民共和国唯一の国立図書館

であり、國務院の文化部（我が国の文部科学省に対応）の所管下にあつて、同国の中央図書館としての役割を担っています。職員計1,365名、所蔵資料計2,778万点を擁し、隣接する本館第一期館と第二期館、離れて故宮近くにある古籍館の3施設から構成され、建物延べ面積約25万平方メー



中国国家図書館 本館第一期館

トルは、世界の国立図書館で第3位の規模となっています（2009年末現在）*。

中国国家図書館は、1949年の中華人民共和国成立後、国の立法機関である全国人民代表大会と政治的決定機関の一つである中国人民政治協商会議（両者をあわせて「两会」という。年1回、3月開催）や、中国政府の中枢部である国務院各部に対する奉仕を重要な任務の一つとしてきました。近年、これらの国家機関に対するサービスに一段と力点を置き、業務の拡充に注力している様子がうかがえます。

立法・政策決定サービス部

現在、中国国家図書館において、立法・政策立案を補佐するサービスを担っているのは、「立法・政策決定サービス部」（立法決策服務部）です。同館の説明によると、1998年に、立法や国の政策決定のためのレファレンス・サービスを専門に担当する目的で、レファレンス部門の一翼として「国家立法・政策決定サービス部」が置かれました。その後、2008年初頭に、より独立性の高い「立法・政策決定サービス部」に改組されています。職員数は、2008年初頭には27名でしたが、2009年10月には48名まで増員されています。2009年9月には、サービス拡充の一環として、海外中国学文献研究センターと法律参考閲覧室を開室しています。

立法・政策決定サービス部では、中国国家図書館の膨大な文献および情報資源を基盤として様々なサービスを提供しています。

* 立法府・行政府へのサービスを含む中国国家図書館の組織・業務の全体像については、国立国会図書館関西館図書館協力課編・刊『中国国家図書館の現況』2010.11（<http://current.ndl.go.jp/report/no12>）参照。

日本では

国立国会図書館は、立法府に置かれた図書館として、国会の立法活動を補佐することを第一の任務とし、国会に対し、所蔵資料の貸出し・複写サービスなどの通常

の図書館サービスを提供しているほか、調査及び立法考査局で「立法調査サービス」として文献等に基づいた調査を行っています。



全国人民代表大会が開かれる人民大会堂 大会議場

文献提供とレファレンス・サービス

中国国家図書館による国家中枢の政策決定者へのサービスとしては、従来から中国共産党と国の主要指導者のための文献提供とレファレンス・サービスがなされてきました。

近年の動きとして、国の行政機関（我が国の府省に当たる部や委員会）等に国家図書館分館（「部委分館」と略称）が設置され、政策立案・決定に必要な情報サービスが提供されています。現在、1999年6月に最初に設置された人事部分館をはじめ、国家発展改革委員会マクロ経済研究院分館、

労働・社会保障部分館、財政部分館、中国民航分館、民政部分館、交通部分館、中央社会主義学院分館などが設置されています。なお、この制度の整備に際しては、国立国会図書館の支部図書館制度が参考にされたということです。

国務院各部・各委員会や関連機関へのサービスと並んで、両会のメンバーに対し、審議参加、法案・議案作成に必要な文献やレファレンス・サービスが提供され、2001年以降は、全国人民代表大会が開かれる人民大会堂と参加代表団の宿泊先にサービスステーションを設置し、担当職員により各参加者に対して直接サービスを提供しています。

参考資料の作成・提供

立法・政策決定サービス部は、立法・政策決定に資する各種の参考資料を作成し、両会および国務院各部等に提供しています。

主題領域ごとに文献を選択提供する『国家図書館政策決定参考（国図決策参考）』、特定主題について網羅的に文献を集成、要約を付けた『特定主題資料集成（專題資料滙編）』などの参考資料が

日本では

国立国会図書館法等に基づいて、各府省庁および最高裁判所に国立国会図書館の支部図書館が設置されています。国の情報基盤を効率的に構築・運営することを目的として、国立国会図書館中央館とこれらの支部図

書館は図書館ネットワークを形成し、中央館は支部図書館に対して図書館サービスを提供するほか、支部図書館の業務を支援し、ネットワーク全体のための様々な活動を行っています。

作成・提供されています。

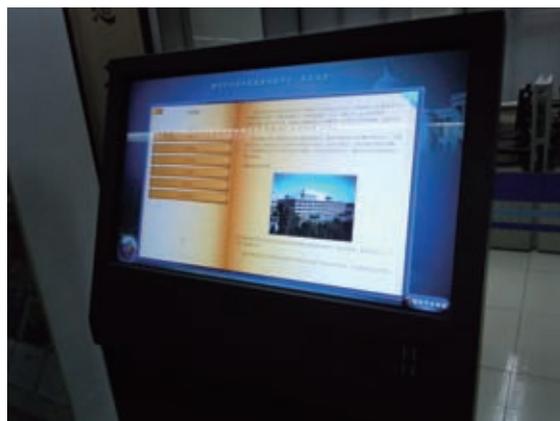
四川大地震のような重要案件については、海外の大震災の対応事例などを取り上げた一連の報告書が作成されています。

さらに、両会向けには、議題の焦点となる事項についての資料集『两会特報』が作成・提供され、また、全国人民代表大会常務委員会で審議中の法案に関する基本資料・背景説明資料などの作成・提供がなされています。

デジタル情報資源の構築

两会および国务院各部等に対するサービスの手段として、ネットワーク経由の情報提供にも力点が置かれ、システムの構築、コンテンツの拡充が進められています。

中央国家機関に対し立法・政策決定の参考情報を総合的に提供するため、窓口となる専用ウェブサイト「国家図書館立法・政策決定サービスプラットフォーム」が、2008年12月に本格稼働しています。全国人民代表大会や各部委分館向けに、それぞれのウェブサイトがカスタマイズされていま



世界各国の議会に関するデータベースから
国立国会図書館についての情報

す。現在、ニュース、専門テーマに関する情報、自館で構築したデータベース（各国国情データベース等）、外部データベース（慧科中国語新聞データベース等）などが提供されています。

業務交流における「プラットフォーム」のデモンストレーションでは、世界各国の議会に関するデータベースにおいて、我が国の国会に関するかなり詳細な情報が多岐にわたり盛り込まれており、コンテンツの豊富さがうかがえました。

日本では

立法調査サービスを担当する調査員は、国政課題に関する調査・研究を日々行い、その成果を刊行物に掲載しています。刊行物は、国会議員や関係者に配布するほか、国立国会図書館ホームページに掲載しています。また、

国会向け情報提供ページ「調査の窓」を設け、これらの刊行物や館内外のデータベースを議員に提供しています。

その他

中国国家図書館は、2002年から、閣僚級指導幹部に対する歴史文化講座を開催しています。その内容は古今の哲学、歴史文化、民族宗教、文学芸術、時事問題、社会経済と多岐にわたり、各分野の著名な学者が講師となっています。また、毎月の新規収集図書から、重要で参考に資するとみられる図書を分野ごとに選定し解題を付けた『新書推薦』が刊行されています。

中国国家図書館は、国家の立法・政策決定を補佐するため、1990年代末以降10年余の間に、国

日本では

国政課題について簡潔にわかりやすく解説し、意見交換する場として、「政策セミナー」を開催しています。国会議員および議員秘書を対象としていますが、平成22年10月の国際政策セミナー「世界の中の中国」のように公開するものもあります。

の立法機関、政府の中枢部へのサービスの大幅な拡充を図っています。同館が、レファレンス・サービスや文献提供にとどまらず、各種の主題別の参考資料を数多く作成していることや、デジタル情報資源の拡充に注力していることは、特に興味深い点です。国立国会図書館の立法調査業務に対しても強い関心が示されました。

我が国と中国では、政治体制の違いがあり、また、国会に置かれた機関である国立国会図書館と国务院（文化部）の管轄下にある中国国家図書館とでは、組織の使命・役割に大きな相違があることは確かですが、国の立法・政策決定に関連する情報の提供ということでは、業務として似通った一面もあります。中国国家図書館におけるこれらのサービスの展開は、今後も注目される場所です。

（第29回日中業務交流代表団）



業務交流の会場で

『びぶろす』 支部図書館制度とともに

各府省庁や最高裁判所に国立国会図書館の支部図書館が設置されていることをご存じですか？ これらの支部図書館は、国立国会図書館を中央館として一つの図書館ネットワークを形成し、中央館が行政・司法の各機関の職員へ図書館サービスを提供する際、また、各機関の刊行物を中央館へ納本する際に、窓口としての役割を果たしています（これを支部図書館制度といいます）¹。また各支部図書館には、それぞれ当該分野に関する特色ある蔵書を備えた専門図書館としての性質もあります。

今回ご紹介する『びぶろす』は、そんな支部図書館制度とともに歩んできた刊行物です。その誕生は制度ができて間もない昭和25（1950）年、設置されたばかりの支部図書館に向けて、中央館から図書館サービスの重要性を訴えるために創刊されました。その後、支部図書館を含めた専門図書館界にも視野を広げるなど少しずつスタイルを変え、現在は、広く各種専門図書館と国立国会図書館とをつなぐ連絡情報誌（季刊）として、国立国会図書館ホームページでご覧いただけます²。図書館界の多様な主題に関する考察、中央館と支部図書館によって行われる事業の報告、各支部図書館や特色ある専門図書館の紹介、イベント情報などをまとめた内容は、支部図書館や専門図書館で働く方々だけで



なく、その他の方々にも専門図書館の動向や支部図書館の現況を知る窓口として役立てていただけるのではと思います。

編集は支部図書館・協力課が担当しており、掲載内容は支部図書館担当者による編集会議の場で検討しています。図書館に関する雑誌が数多くある中、どうすれば『びぶろす』ならではの特色ある記事を揃えることができるのかと頭を悩ませることもあります。より多くの方々には有益な情報をご提供することを目指して、各図書館の動向や読者のニーズにアンテナを張る日々です。

（支部図書館・協力課サービス係 編集担当）

1 支部図書館制度の詳細については、本誌581（2009年8月）号 pp.16-17「支部図書館制度 行政・司法各部門に置かれた図書館（図解 国立国会図書館のしごと）」参照。
2 国立国会図書館ホームページ>刊行物>連絡情報誌>びぶろす (<http://www.ndl.go.jp/jp/publication/biblos/index.html>)

平成22年度の国立国会図書館 活動実績評価報告

国立国会図書館は、平成16年度に評価制度を導入し、サービス向上と業務改善に取り組んでいます。

平成21年度からは、成果をより重視した「活動実績評価」のもと、中長期的な活動の指針である「国立国会図書館60周年を迎えるに当たってのビジョン」（長尾ビジョン）の実現に向けて、具体的に取り組むべき「重点目標」を掲げています。平成22年度の活動実績を振り返り、重点目標について、進捗と成果をご報告します¹。

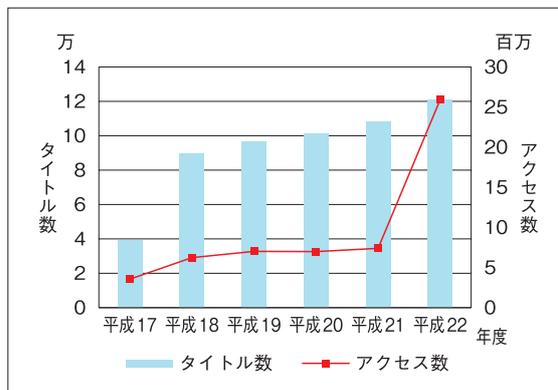
活動実績から 所蔵資料の集中的なデジタル化と提供の拡大 ←重点目標4-(1)、(追加)

国立国会図書館では、利用と保存の両立をはかることを目的に、蔵書をデジタル化しています。平成21年度補正予算において大規模なデジタル化の経費が計上され、平成21～22年度の2か年の計画で作業を進めてきました。デジタル化の対象は、図書（昭和43年以前刊行）、雑誌、江戸期以前の古典籍、学位論文（博士）、官報等で、平成22年度末までに当初の予定を上回る約95万冊のデジタル化が終了しました。

デジタル化した資料は、平成22年9月以降、順次、館内で提供しています。また、戦前期に刊行された図書のうち著作権処理を行ったものと、古典籍資料等は、インターネットを通じて提供しています。今後も資料のデジタル化とその著作権処理を着実に進めていきます。



デジタル化作業（提供：大日本印刷株式会社）



「近代デジタルライブラリー」
インターネット提供タイトル数とアクセス数の推移

平成22年度 重点目標と評価

★p.28、30～31で紹介しています

「国立国会図書館60周年を迎えるに当たってのビジョン（長尾ビジョン）」と 「平成22年度重点目標」	評価	
	進捗	成果
ビジョン1 国会に対するサービスをより高度なものとし、立法補佐機能をさらに強化します。		
重点目標1-(1) 「立法府のブレーン」としての機能を強化します。★	A	B
重点目標1-(2) 「議員のための情報センター」として、国政審議に有用な情報を整備・提供します。	A	B
ビジョン2 日本の知的活動の所産を網羅的に収集し、国民の共有資源として保存します。		
重点目標2-(1) 納本制度の周知・普及活動を強化し、国内出版物の納入率の向上を図ります。	A	A
重点目標2-(2) 収集した資料を適切に保存し、永続的なアクセスを保証します。	A	A
重点目標2-(3) インターネット情報をはじめ、電子情報の蓄積・保存・提供を推進します。★	S	A
ビジョン3 利用者が求める情報への迅速で的確なアクセスまたは案内をできるようにします。		
重点目標3-(1) 図書館業務を効率化し、サービスの利便性と利用者満足度を向上させます。	A	A
重点目標3-(2) 館内外の情報資源を適切に整備し、効果的に提供します。	A	A
ビジョン4 利用者がどこにいても、来館者と同様のサービスが受けられるように努めます。		
重点目標4-(1) 資料のデジタル化を進め、インターネットによる原文提供の範囲を拡大します。★	S	A
重点目標4-(2) インターネット経由申込み複写において、利用者満足度を高めます。	A	A
ビジョン5 社会に多様で魅力的なサービスを提供し、国立国会図書館の認知度を高めます。		
重点目標5 館内外のイベント・展示会等を通して、当館の役割・活動に対する社会的な理解を深めます。★	A	A
ビジョン6 公共図書館をはじめとする国内の各種図書館とより密接な連携・協力を進めます。		
重点目標6 日本国内の各種図書館をバックアップするとともに、連携・協力を強化します。	A	B
ビジョン7 海外の図書館との密接な連携を行い、情報の共有・交換に努めます。		
重点目標7 デジタルアーカイブを中心に、海外の図書館等との連携・協力を深めます。	A	A

平成22年度においては、平成21年度補正予算に計上された次の事業を重点目標とし、取り組みます。

重点目標(追加) 電子情報環境の進展に対応した国民の知的活動の基盤として、平成21年度補正予算に基づき、資料の集中的なデジタル化を行います。★	S	-
---	---	---

評価の観点

【進捗】

目標達成のために実施している事業が、予定したとおり進捗したかを4段階で評価。

評価S：目標を上回り進捗しました

評価A：目標どおり進捗しました

評価B：目標より一部遅延しました

評価C：目標より遅延しました

【成果】

利用者の方々から見て、サービス向上という成果が実現したかを4段階で評価。

評価S：目標を超えた成果を実現しました

評価A：目標どおりの成果を実現しました

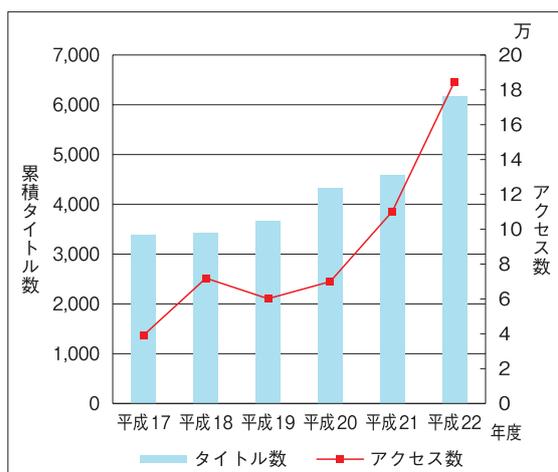
評価B：目標とした一部の成果を実現しました

評価C：目標とした成果がみられませんでした

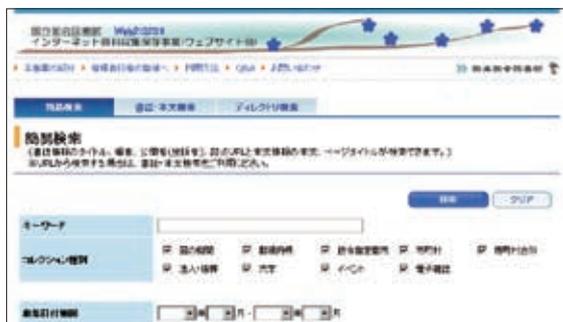
活動実績から インターネット情報の収集・保存の着実な進展 ←重点目標2-(3)

国立国会図書館は、日本国内の公的機関が一般に公開しているインターネット情報について、許諾を得ずに収集・保存できる仕組みを整え、平成22年4月から「インターネット資料収集保存事業」として、許諾によらずすべて収集・保存しています。

インターネット資料収集保存事業（ウェブサイト別）の平成22年度の新規タイトル数は約1600件、アクセス数は約18万件を超え、前年度を大きく上回りました。



インターネット資料の収集および利用実績



<http://warp.da.ndl.go.jp/>

過去のウェブサイトやインターネット上の刊行物を機関名、タイトル等で検索することができる。市町村合併により消失した全国の市町村のウェブサイトも保存されている。事業の詳細は、本誌593（2010年8月）号 22～25ページ、597（2010年12月）号 11～17ページ参照。

活動実績から 国民の読書・文化活動を支援する様々な行事を開催 ←重点目標5

国立国会図書館では、国民の読書・文化活動を支援する行事を開催しています。平成22年度は国民読書年であり、国民読書年フォーラム「日本の言葉と文化を未来に伝える」、国民読書年記念シンポジウム「読書とはなにか」、国民読書年および国際子ども図書館開館10周年を記念した展示会「日本発☆子どもの本、海を渡る」など、様々な関連行事を開催しました。また、議会開設120周年を記念して「議会政治展示会」を開催しました。



議会開設百二十年記念 議会政治展示会

活動実績から 科学技術に関する調査プロジェクト始動 ←重点目標1-(1)

国立国会図書館は、国会議員の立法活動を補佐するため調査・情報提供を行っています。議員からの調査依頼に迅速に応えるとともに、国政審議の参考となるテーマを予測し、刊行物にまとめて議員に配布しています。刊行物は、当館ホームページにも掲載しています。

平成22年度から、科学技術分野の課題を館外の専門家と連携して調査する「科学技術に関する調査プロジェクト」を実施しています。第1回となる昨年度は「科学技術政策の国際的な動向」をテーマとして調査を行い、本編と資料編の2冊で構成される報告書を平成23年3月に刊行しました。報告書では、科学技術政策について、諸外国と日本における近年の動向を比較し、課題を整理しています。



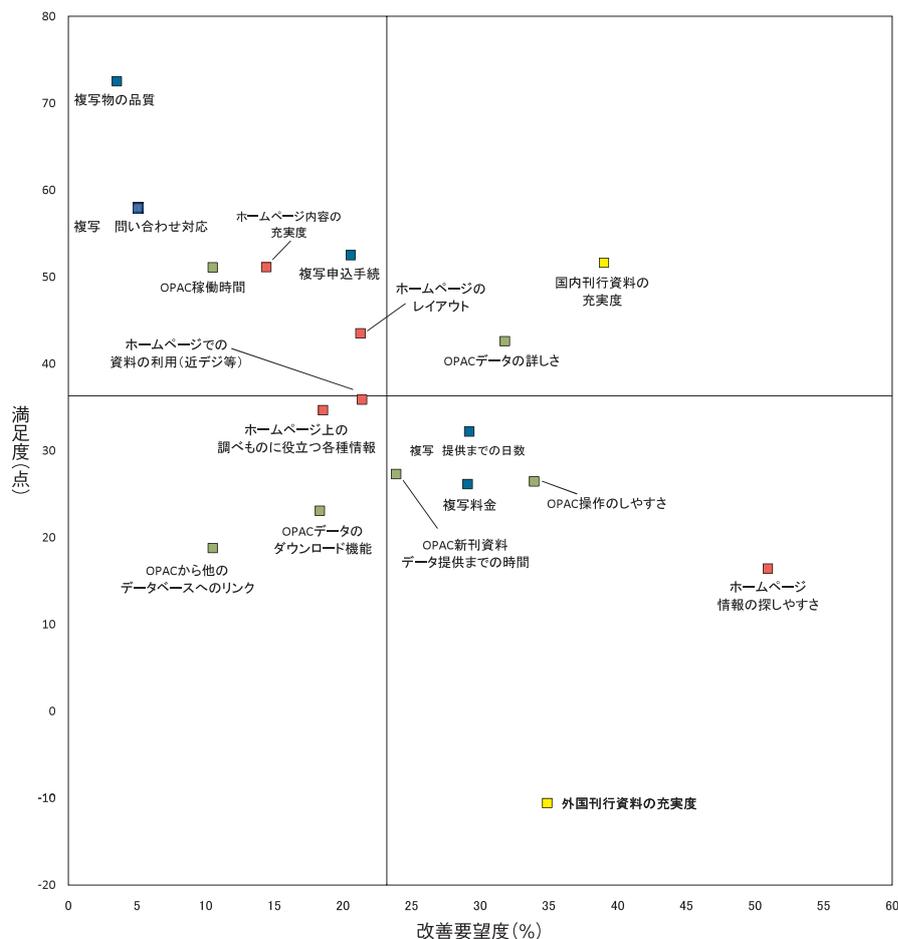
『科学技術政策の国際的な動向』
国立国会図書館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>) >
国会サービス関連情報>立法調査資料>調査資料>平成
23年刊行分 ([http://www.ndl.go.jp/jp/data/publication/
document2011.html](http://www.ndl.go.jp/jp/data/publication/document2011.html))

活動実績評価に関する有識者会議

平成21年度から、評価の客観性・公正性を確保するために、外部の学識経験者や実務家による「活動実績評価に関する有識者会議」を開催しています。国立国会図書館の評価の枠組みは自己評価を基本とするものですが、評価の手法と結果の妥当性などについては、有識者会議により外部の視点からチェックを受けています。

平成22年度の重点目標評価について意見を聴取するため、6月10日に有識者会議を開催しました。出版点数の減少に伴う納入資料数の減少など、外部要因に大き

く左右される指標については、その要因を考慮に入れ、評価の際に十分に説明すること、そういった指標については、今後、設定の仕方を工夫するか、場合によっては評価の判断に含めないこともありうることなどが指摘されました。また、4月に公表済みの平成23年度重点目標評価指標²についても、今回の議論を受けて必要な修正をすべきとの意見で一致しました。これらの意見³をふまえて、平成22年度の重点目標評価を確定し、平成23年度の重点目標評価指標を一部修正しました。



*満足度は、「満足」= 100点、「やや満足」= 50点、「やや不満足」= -50点、「不満足」= -100点、「無回答」「利用していない」= 0点を配点し、これに各項目の回答割合を掛けて算出。

* X軸、Y軸の区切り線は、全項目の満足度と改善要望度の平均値。

* 改善要望度は、全回答者のうち各項目の改善を要望するとした回答者の割合。

利用者の声を評価にも活かしています

国立国会図書館では、毎年度、利用者アンケートを実施しています。来館利用者と遠隔利用者（ホームページや遠隔複写サービスなど来館せずに利用できるサービスの利用者）を、隔年で交互に対象としています⁴。

アンケートで得られたデータは、民間企業で活用されている顧客満足度（CS）調査を応用した手法で分析し、利用者が改善を望んでいるサー

ビスについて、改善の優先順位を明らかにしています。

上の図でいえば、右下の領域に位置する項目が、満足度が低いとともに改善要望度が高く、優先して改善に取り組む必要があるものです。アンケートでこの領域に位置する項目については、評価制度の枠組みの中で優先的に改善を図っています。

（総務部企画課）

平成22年度 サービス実績

国立国会図書館では、各種サービスの所要時間を「サービス実績」として測定しています。
平成22年度の測定結果は以下のとおりです。測定期間の処理件数のうち、8割以上を、この日数・時間内に提供しました。

■ 資料の整理

サービス項目		日数・時間
国内で刊行された資料* の整理	NDL-OPACでの利用申 込みの開始	図書 受入日から57日
		雑誌・新聞の最新号 受入日から2日

*映像資料・録音資料・光ディスク・地図資料等の非図書資料を除く。

■ 来館せずにご利用いただけるサービス

サービス項目		日数・時間
複写	インターネット経由の複写依頼の発送	受理日から5日*
図書館への資料貸出し	図書館を通じて申し込まれた資料貸出しの発送	受理日から4日*
レファレンス	図書館を通じて申し込まれた文書レファレンス・ サービスの回答	受理日から14日

*休館日を除く。

■ 東京本館におけるサービス

サービス項目		日数・時間
閲覧	図書・雑誌カウンターでの書庫内資料の閲覧	申込みから21分
複写	オンライン複写の提供	申込みから24分
	即日複写の提供	申込みから12分
	後日複写の提供	申込日から3日* (撮影を伴うものは7日*)

*休館日を除く。

■ 関西館におけるサービス

サービス項目		日数・時間
閲覧	書庫内資料の閲覧	申込みから14分

■ 国際子ども図書館におけるサービス

サービス項目		日数・時間
閲覧	第一および第二資料室における書庫内資料の閲覧	申込みから11分

1 これまでの評価の取組み、重点目標とその詳細については、国立国会図書館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>) > 国立国会図書館について > 活動実績評価 (<http://www.ndl.go.jp/aboutus/vision.html>) を参照。

2 「活動実績評価」のページで公表している (http://www.ndl.go.jp/aboutus/vision_h23_emphasis.html)。

3 「活動実績評価」のページに議事概要を掲載している (http://www.ndl.go.jp/aboutus/vision_h23_proceedings.html)。

4 アンケートの結果は「活動実績評価」のページに掲載している (<http://www.ndl.go.jp/aboutus/enquete.html>)。

言葉のエッセイ

第7回 濁るか濁らないか

無声音と有声音というものがある。「k」に対して「g」といった具合に、無声音と有声音は対になっている。日本語の場合、点々がつくか否かで区別している。「か」と「が」のように。ところが日本語には、点々と無声音・有声音の区別が対応していない場合がある。それは「は」と「ば」である。「b」の無声音は「p」であるから、「ば」と対になるべきなのは、「ぱ」である。「は」と「ば」「ぱ」は実は関係ない。ところが、日本語では、なぜかこれらは密接な関係にある。例えば、「新」と「橋」が組み合わさると、「しんはし」ではなく、「しんばし」と「は」が「ば」になる。同様に「賛」の後に「否」がくると、「さんひ」ではなく、「さんび」になる。「ば」行、「ぱ」行にすると落ち着くので不思議である。

御承知の方も多いと思うが、韓国・朝鮮語では、語頭の子音は濁らず、語中の子音（激音・濃音などを除く）は濁るという規則がある。したがって、「ビジネス」は、「ピビジネス」になる。

また、フィンランド語には本来「b」「d」「g」が頭に来る単語がなかったため、これらの文字で始まる外来語は、古くは濁らない音で取り込んできた。例えば、スウェーデン語から来た「bank（銀行）」は、「pankki」という。

多くの言語では、語末や無声音の前で、有声音が無声音化するという規則がある。ドイツ語の「山」は「Berg」であるが、「ベアグ」

ではなく、「ベアク」と発音する。ポーランド語の「w」は、英語で言う「v」に当たる文字だが、「すべての」を意味する「wszystek」は「ヴシステク」ではなく、「フシステク」と発音する。

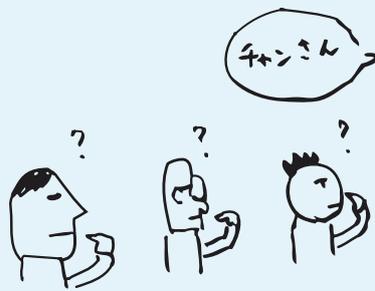
また、特定の子音の前で、無声音が有声音化するという現象もある。イタリア語の「s」は、「l」「m」「n」「v」の前では濁る。英語の「-ism」にあたる「-ismo」は、「イズモ」と発音する。さらにイタリア語の場合、濁っても濁らなくてもいいケースもある。母音にはさまれた「s」がそれである。「家」を意味する「casa」は、「カーサ」でもよいし、「カーザ」でもよい。

中国語の場合、無声音と有声音という区別ではなくて、無気音と有気音という区別を

設けている。「t」が無気音、「d」が有気音で、前者は、日本語の「t」よりも息を強くはいて発音し、後者は、日本語の「d」よりも濁り方はあまり強くなく、聞きよ

うによっては、日本語の「t」にも聞こえる。「jiang」は、日本語では「チャン」と表記している場合もある。しかし、そうすると、「jiang」に対応する無気音「qiang」も、ほかのペアである「zhan」と「chan」も、「zhang」と「chang」も、すべて「チャン」になってしまい、同音の言葉が増えてしまうのが悩みどころである。

(ゴガク・マニアシュヴァイリ)



本屋に ない本

国立国会図書館は、法律によって定められた納本制度により、日本国内の出版物を広く収集しています。このコーナーでは、主として取次店を通さない国内出版物を取り上げて、ご紹介します。

名古屋400年のあゆみ

Nagoya 1610-2010 開府400年記念特別展

名古屋市博物館編 「名古屋400年のあゆみ」実行委員会刊
2010.1 175頁 30 cm <請求記号 GC133-J28 >

名古屋が現在の日本三大都市としての繁栄の礎を築いたのは、今から約400年前の1610年にまで遡る。関ヶ原の戦いの後、徳川家康は、九男義直が尾張国清洲藩主の座に就くと、大坂城の豊臣氏を牽制する目的で、名古屋台地の西北端に巨大な城の築城を計画する。築城とともに、城の南に城下町が配置され、それまでの尾張の中心的な城下町であった清洲から、わずか2～3年の間に武士や町民のみならず、寺院、橋、地名までもが大移動したという。

城下町名古屋誕生から400年を記念して、2010年に名古屋市立博物館で特別展「名古屋400年のあゆみ」が開催された。本書はこの特別展の図録である。実際の展覧会と同様、40のトピックを時系列順に取り上げて、名古屋の歴史を紹介している。

まずは名古屋城築城に始まり、城下に物資を運搬するための運河として掘削が開始された堀川、熱田から伊勢国桑名宿への海路として開かれた七里の渡しなど、江戸時代初期に城下を支えるインフラが整備されていったことの紹介が続く。江戸時代の城下の風俗を伝えるエピソードとして、葛飾北斎が1817年に開いた大ダルマの即書会が大いに賑わい、城下がダルマブームに沸いたことや、1833年に熱田沖から新田水路に迷い込み、捕獲後に芸を覚えて見世物になったアザラシが、その愛くるしい姿で観客を魅了したことが取り上げられており、当時の生活の

一端を垣間見ることができて面白い。

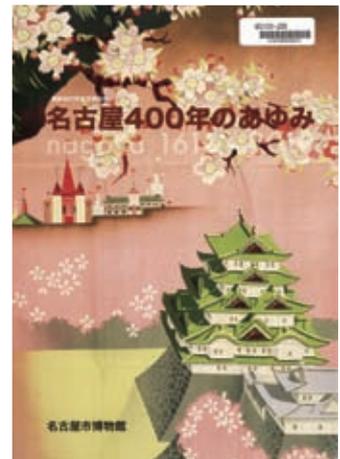
幕末の動乱期には、前尾張藩主の徳川慶勝が、1864年第一次長州征討の総督となり、1868年には佐幕派の藩士を処刑した青松葉事件により旗幟を鮮明にし、

その後の戊辰戦争に新政府側として参戦したことが紹介される。日本が近代国家として歩みだした明治維新後は、1886年名古屋駅完成、1889年に施行された市制・町村制のもとでの名古屋市の誕生、1907年名古屋港開港など、名古屋が近代的な都市として整備されていく様子が見えてくる。太平洋戦争後のトピックとして、1959年の伊勢湾台風、1977年の名古屋市博物館開館と続き、最後は、1992年にアルバービルで開催された冬季オリンピック大会で名古屋市出身の伊藤みどり選手が銀メダルを獲得し、その後も浅田真央や安藤美姫といった有名選手を輩出し、スケート大国となっているというところで、最後のトピックが締めくくられる。

40のトピックとそれにまつわる多数の図版から、名古屋の400年の歴史をたどらせてくれる本である。金の鯨、ひつまぶしといった名物にとどまらない名古屋の諸相に関心のある方は、お手にとってみてはいかがでしょうか。

(収集書誌部収集・書誌調整課 佐藤 良)

※1部1,500円で入手可能。詳細は名古屋市博物館ミュージアムショップへ。電話 052 (853) 2655



**第20回納本制度審議会
および
第8回納本制度審議会
代償金部会**



6月28日、東京本館において、第20回納本制度審議会および第8回納本制度審議会代償金部会が開催された。審議会委員11名のほか、当館からは館長等14名が出席した。6月1日付けをもって、館長により委員の委嘱および代償金部会に所属する委員の指名が行われたことが報告され、中山信弘委員が互選により会長に選出され、濱野保樹委員が会長から、会長代理に指名された。

館長から「国立国会図書館法第二十五条の規定により納入する出版物の代償金額に関する件（昭和50年国立国会図書館告示第1号）第2項第2号に規定する納入の一括代行事務に要する金額の見直しについて」の諮問があり、同諮問は、会長により代償金部会に付託された。

また、審議会終了後、代償金部会が開催され、山本隆司委員が互選により部会長に選出され、福井健策委員が部会長から、部会長代理に指名された。引き続き、付託事項に関し調査審議が行われた。

審議会に関する情報は、国立国会図書館ホームページ＞納本制度＞納本制度審議会（http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/deposit_council_book.html）に掲載している。

納本制度審議会委員名簿（五十音順）（平成23年6月28日現在）

会 長	中山 信弘	明治大学特任教授、東京大学名誉教授
会長代理	濱野 保樹	東京大学大学院新領域創成科学研究科教授
委 員	石崎 孟	社団法人日本雑誌協会理事長
	遠藤 薫	学習院大学法学部教授
	相賀 昌宏	社団法人日本書籍出版協会理事長
	角川 歴彦	角川グループホールディングス代表取締役会長
	岸本 佐知子	翻訳・著述業
	北川 直樹	一般社団法人日本レコード協会会長
	福井 健策	弁護士
	藤本 由香里	明治大学国際日本学部准教授
	三輪 眞木子	放送大学ICT活用・遠隔教育センター教授
	山崎 厚男	社団法人日本出版取次協会会長
	山本 隆司	東京大学大学院法学政治学研究科教授
	湯浅 俊彦	立命館大学文学部准教授

代償金部会所属委員

部会長	山本 隆司
部会長代理	福井 健策
	石崎 孟
	相賀 昌宏
	北川 直樹
	藤本 由香里
	湯浅 俊彦

平成23年度 国立国会図書館長と 都道府県立及び 政令指定都市立 図書館長との懇談会

6月16日、東京本館において標記懇談会を実施した。国立国会図書館と公共図書館との協力の推進を図ることを目的とするこの会は今年で47回目となり、都道府県立および政令指定都市立図書館等65機関から74名が参加した。

今年は、3月11日に発生した東日本大震災による被害状況および復興をテーマに開催し、図書館等の被害状況、現状等についての文部科学省の報告に続いて、当館から書庫の被災および復旧、復興支援に係る取組みについて報告した。また、日本図書館協会および全国公共図書館協議会から震災に関連した支援活動等の報告があった。

公共図書館からは、酒井久美子岩手県立図書館長が「東日本大震災一県内の状況と復興への取組み」、久光洋一宮城県図書館資料奉仕部長が「東日本大震災における宮城県内公共図書館の被害・復旧状況について」、吉田和紀福島県立図書館企画管理部専門司書が「東日本大震災—その状況と図書館ネットワークの復興に向けて」と題した報告を行った。

報告後、震災対応と図書館の復興、国立国会図書館に期待することについてグループ討論を行った。

平成23年度 国際子ども図書館 連絡会議

6月15日、国際子ども図書館において、第9回となる標記会議を開催した。13の機関・団体から14名が出席した。

会議では、まず国際子ども図書館から、平成22年度の活動および平成23年度の実施計画のほか、先に策定した「国際子ども図書館第2次基本計画」の内容および新館の建設予定について報告した。続いて、東日本大震災後の図書館等の復興支援に係る取組みについて情報交換を行った。現地のニーズに合った支援や現地の人材を生かした活動の重要性、効果的な広報の重要性、人的支援の必要性などが指摘された。最後に、大阪府立中央図書館国際児童文学館の現況報告があった。

会議資料は、国際子ども図書館ホームページ>研修・交流>関連機関との連携協力>国際子ども図書館連絡会議(<http://www.kodomo.go.jp/study/cooperation/ilcl/index.html>)に掲載している。

法規の制定

【規程第1号】 国立国会図書館組織規程の一部を改正する規程

【規則第3号】 国立国会図書館組織規則の一部を改正する規則

(平成23年6月23日制定)

デジタル情報資源を活用したサービスの拡充・高度化および情報システム関連事務の一元化による業務の効率化・円滑化を図るため、電子情報部を新設し、あわせて、利用者サービス業務を集約し、その効率化を図るため、資料提供部および主題情報部を統合して利用者サービス部を設置することとした。規程第1号では部局レベル、規則第3号では課レベルで、それぞれ所要の規定を整備した。いずれも平成23年10月1日から施行される。

これらの法規による改正後の国立国会図書館組織規程（平成14年国立国会図書館規程第2号）および国立国会図書館組織規則（平成14年国立国会図書館規則第1号）は、これらの法規の施行後、国立国会図書館ホームページ>国立国会図書館について>関係法規（<http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/laws.html>）に掲載される。なお、これらの法規は、平成23年6月23日付けの官報に掲載されている。

【規則第4号】 国立国会図書館事務文書開示規則

(平成23年6月24日制定)

行政機関の保有する情報の公開に関する法律（平成11年法律第42号）の趣旨を踏まえ、国立国会図書館が保有する事務文書の開示についての運用の基本を定めた。平成23年7月1日から施行された。

この法規は、国立国会図書館ホームページ>国立国会図書館について>関係法規に掲載されている。

【規則第5号】 国立国会図書館組織規則の一部を改正する規則

【規則第6号】 国立国会図書館国際子ども図書館資料利用規則の一部を改正する規則

【告示第1号】 複写料金に関する件の一部を改正する件

(平成23年7月1日制定)

国際子ども図書館において、デジタル化した資料、データベースその他の電子

情報等の閲覧および複写サービスを開始することに伴い、その利用手続きについて規定するとともに、国際子ども図書館資料情報課の所掌事務について、所要の規定を整備した。平成23年7月1日から施行された。

これらの法規による改正後の国立国会図書館組織規則、国立国会図書館国際子ども図書館資料利用規則（平成12年国立国会図書館規則第4号）および複写料金に関する件（昭和61年国立国会図書館告示第1号）は、国立国会図書館ホームページ>国立国会図書館について>関係法規に掲載されている。

おもな人事

<辞職>

平成23年7月31日付け

専門調査員 調査及び立法考査局経済産業調査室主任 高山 丈二

<特別任用>

※（ ）内は前職

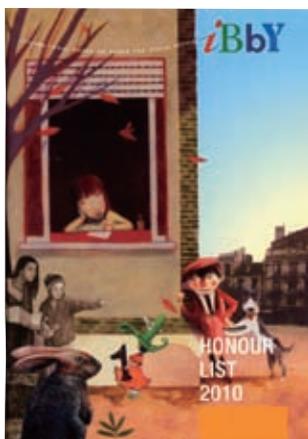
平成23年8月1日付け

専門調査員 調査及び立法考査局経済産業調査室主任 塚原 正

(会計検査院事務総長官房総括審議官)

お知らせ

■ 国際子ども図書館展示会 「世界をつなぐ子どもの本— 2010年国際アンデルセン賞・ IBBY オナーリスト 受賞図書展」



IBBY Honour list 2010.
International Board on Books for
Young People, c2010.
表紙

国際子ども図書館では、8月6日から、国際児童図書評議会（IBBY）の日本支部である日本国際児童図書評議会（JBBY）との共催で、「世界をつなぐ子どもの本—2010年国際アンデルセン賞・IBBY オナーリスト受賞図書展」を開催します。

この展示会では、2010年の国際アンデルセン賞受賞者のこれまでの作品と、IBBY オナーリスト（優良作品）の推薦作品およびその邦訳書など、あわせて約200冊を手にとりご覧いただけます。入場は無料です。

国際アンデルセン賞は「小さなノーベル賞」ともいわれ、2年に1度、児童文学の分野で卓越した業績をあげた現存の作家および画家に贈られます。2010年はデイヴィッド・アーモンド氏（イギリス）が作家賞を、ユッタ・パウアー氏（ドイツ）が画家賞を受賞しました。

IBBY オナーリストは、IBBYの各国支部が、自国で新しく出版された児童書の中から、外国の子どもたちに紹介したい作品を選出し、隔年で作成する推薦図書リストです。「文学」「イラストレーション」「翻訳」の3部門からなり、2010年は54の国と地域から164作品が選ばれました。日本からは、文学部門に濱野京子氏の『フュージョン』、イラストレーション部門に伊藤秀男氏の『うしお』、翻訳部門にこだまともこ氏の『ダイドーと父ちゃん』が選出されています。

- 開催期間 8月6日（土）～9月11日（日）
* 休館日：月曜日、資料整理休館日（8月17日）
- 開催時間 9:30～17:00
- 会場 国際子ども図書館ホール（3階）

○お問い合わせ先

国立国会図書館 国際子ども図書館 企画協力課
電話 03 (3827) 2053 (代表)

お知らせ

■ 「国立国会図書館 典拠データ検索・提供 サービス (Web NDL Authorities) 開発版」 を公開しました



7月7日に、「国立国会図書館典拠データ検索・提供サービス (Web NDL Authorities) 開発版」を公開しました。これは、平成22年6月からインターネットを通じて提供している「国立国会図書館件名標目表 (Web NDLSH)」を発展させ、新たに個人名、家族名、団体名、地名および統一タイトルの典拠データ*を追加し、機能を拡張したものです。国立国会図書館の作成した約100万件の典拠データを検索・ダウンロードし、ウェブ上のさまざまなアプリケーションやシステムで活用することができます。どうぞご利用ください。

この開発版は、平成23年4月1日時点のデータを用いて検索機能の検証等を行うことを目的としています。平成23年12月 (予定) に本格的に開始するまではデータの更新を行いませんので、ご注意ください。

*図書館目録において検索の手がかりとなる著者名や主題キーワードの統一した形等を定めたもの。例えば著者名典拠を活用すれば、異なる形で表示された同一人物 (団体) を網羅的に検索すること、同名で異なる人物 (団体) の著作を区別して検索することが可能となる。

○URL <http://id.ndl.go.jp/auth/ndla/>

■ 本の万華鏡 (第7回) 「ドイツに学び、 ドイツに驚く— 近代日独関係の ひとコマ」



「お婆さんとツェツペリン」挿絵
(小川未明著 初山滋挿絵
『未明童話集 第4巻』
丸善 1930 p.175)

2011年は日独交流150年の節目の年です。日本とドイツ (当時はプロイセン) の交流は、1861 (万延元) 年の修好通商条約締結により始まりました。当時の日本にとって、ドイツは近代化の手本であり指導者的な存在でした。

7月20日から提供を開始したミニ電子展示会「本の万華鏡」第7回では、150年間の日独交流を彩るさまざまな出来事の中から、次の三つのトピックを取り上げます。第1章「首都東京のなかのドイツ」では、首都東京の街づくりとドイツとのかかわりについて、第2章「ドイツ人俘虜がもたらした技術や文化」では、ベートーベンの「第九」やロースハムなど、ドイツ人俘虜 (捕虜) が日本にもたらしたものについて、第3章「ドイツ先端技術への驚き—1929年ツェツペリン飛行船到来」では、ドイツから日本に飛来した飛行船ツェツペリン号の先端技術に大衆が驚嘆し熱狂した様子について、多様な文献からご紹介します。

○URL <http://rnavi.ndl.go.jp/kaleido/>

お知らせ

■ 関西館小展示（第9回）

「日本人と英語」



「帝国大学入学試験問題集 最近六年間」北辰書店 1926
「近代デジタルライブラリー」
(<http://kindai.ndl.go.jp/>) で
インターネットを通じて閲覧可能

平成23年度から全国の小学校で、原則として英語を扱う「外国語活動」が必修となりました。関西館では、この英語教育史における大きな節目の年にちなみ、「日本人と英語」と題して、日本の近現代における英語学習の歴史をたどる小展示を開催します。

江戸期以降の辞書、明治期以降の教科書、学習参考書、そして英語必修化をめぐる現代の議論に関する資料36点を展示します（一部は復刻版）。また、日本で英語が広がった時代の世相を伝える資料として、明治期の翻訳書や西洋文化の理解に貢献した外国語学校の年史を取り上げ、日本人が英語の学習に、そして外国の文化の摂取にどのように取り組んできたのかをご紹介します。

- 開催期間 8月18日（木）～ 9月20日（火）（日曜・祝日を除く）
- 開催時間 10:00～18:00
- 場 所 関西館 総合閲覧室
- 入 場 無料

■ 国際子ども図書館で

電子情報が 利用できるよ うになりました

7月26日から、国際子ども図書館の第一資料室で、電子情報提供サービスを開始しました。室内の2台の端末（平成23年度中に増設予定）で、児童書や児童雑誌のデジタル画像の閲覧、プリントアウトができます。どうぞご利用ください。なお、第一資料室は原則として満18歳以上の方がご利用になれます。

※児童書、児童雑誌のほか、東京本館・関西館と同様に、貴重書、明治から昭和にかけての図書、国立国会図書館が契約するオンラインデータベース、電子ジャーナルも利用できます。

○お問い合わせ先

国際子ども図書館 資料情報課 情報サービス係
電話 03 (3827) 2053 (代表)



お知らせ

■ 平成23年度 レファレンス研修

国内の図書館においてレファレンス業務を担当する中堅職員に対し、レファレンス・サービスを行う上での問題解決に役立つ知識を取得し、実務能力の向上を図ることを目的として、次のとおり平成23年度レファレンス研修を実施します。

- 日 時 平成23年11月16日（水）、17日（木）
- 会 場 東京本館 新館3階研修室
- 対 象 応募の時点でレファレンス業務に従事し、かつ同業務経験5年以上の公共図書館および大学図書館職員等。
*研修参加者には、事前に課題を課すほか、アンケートに回答していただきます。
- 定 員 24名。1機関からの参加は原則として1名。応募多数の場合、過去に参加のない機関や、前回の参加から3年以上経過している機関を優先します。
- 内 容 次のテーマについて講義と演習を行います。
 - ①レファレンス・プロセスの理論と評価・分析の考え方
 - ②人文科学分野および経済社会分野のレファレンス事例の解説
 - ③効果的なパスファインダーの作成方法
- 講 師 齋藤泰則氏（明治大学文学部教授）、当館主題情報部職員。
- 参 加 費 無料。ただし、旅費・滞在費等は受講者の負担とします。
- お申込方法 ホームページ掲載の申込書にご記入の上、電子メール、FAXまたは郵送で平成23年9月16日（金）までにお申し込みください（必着）。
- お申込み・お問い合わせ先
 - 〒619-0287 京都府相楽郡精華町精華台8-1-3
 - 国立国会図書館 関西館 図書館協力課 研修交流係
 - 電子メール training@ndl.go.jp FAX 0774 (94) 9117
 - 電話 0774 (98) 1445 担当：篠田、向井

※研修内容の詳細は、ホームページをご覧ください。

国立国会図書館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>)

>図書館員の方へ>図書館員の研修>平成23年度レファレンス研修のご案内

URL http://www.ndl.go.jp/jp/library/training/guide/1191939_1485.html

お知らせ

■ 新刊案内

国立国会図書館の 編集・刊行物



外国の立法 立法情報 翻訳 解説 第248号 A4 114頁
季刊 1,890円 (ISBN 978-4-87582-715-3)

<主要立法(翻訳・解説)>

- ・EUの水銀の輸出禁止及び安全貯蔵に関する規則
- ・2008年水銀輸出禁止法
- ・ドイツにおける銀行再編基金法の制定
- ・スウェーデンにおける児童ポルノ処罰規定
- ・イノベーションセンター「スコルコヴォ」に関する法制
- ・青少年とオンラインゲーム



レファレンス 725号 A4 73頁 月刊 1,050円

- ・予算と法律との関係
- ・国際標準化の現状と我が国の課題
- ・オランダの介護保障制度



レファレンス 726号 A4 66頁 月刊 1,050円

- ・学校施設の課題
- ・ドイツの対中国外交戦略
- ・諸外国の議会テクノロジーアセスメント



カレントアウェアネス 308号 A4 26頁 季刊 420円

- ・被災資料を救う：阪神・淡路大震災からの歴史資料ネットワークの活動
- ・大学図書館員の継続教育における汎用的能力の重要性
- ・外国児童文学の翻訳の歩み

<動向レビュー>

- ・Linked Dataの動向
- ・ONIX：書籍流通における出版社のメタデータ標準化
- ・デジタル教科書をめぐって

<研究文献レビュー>

- ・MLA連携—アート・ドキュメンテーションからのアプローチ



NDL CD-ROM Line 点字図書・録音図書全国総合目録 2011年1号

(1980年以前～2011年3月収録) 年2回更新

年間契約価格42,000円、初年度のみ63,000円(検索ソフト込み)

参加館は243館(国立国会図書館、点字図書館86館、公共図書館156館等)。

収録レコード468,075件。

入手のお問い合わせ

日本図書館協会

〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14 電話 03(3523)0812

C O N T E N T S

- 02 Book of the month - from NDL collections
Future war novels in the past : which war did the humankind choose?
- 04 *Terakoya*
Takejiro Hasegawa's publishing introduced Japanese culture to foreign countries
- 18 NDL Search NDL's new integrated search service
- 22 National Library of China's services to the state organs of the People's Republic of China
- 28 National Diet Library in FY 2010
Report of the NDL's Activity Performance Evaluation
- 34 Essay on languages (7) Sonant and voiceless
- 27 <Tidbits of information on NDL>
Biblos : developing with the Branch Library System of the NDL
- 35 <Books not commercially available>
○ *Nagoya 400-nen no ayumi : Nagoya 1610-2010 : Kaifu 400-nen kinen tokubetsuten*
- 36 <NDL News>
○ 20th meeting of the Legal Deposit System Council and 8th meeting of the Compensation Division
○ Conference with directors of prefectural and major municipal libraries in FY2011
○ Liaison conference of the International Library of Children's Literature in FY2011
○ Laws established
○ Changes in personnel
- 40 <Announcements>
○ Exhibition at the International Library of Children's Literature "Children's books link the World - Hans Christian Andersen Award 2010 & IBBY Honour List 2010"
○ Web NDL Authorities (BETA) now released
○ Kaleidoscope of Books (7) "Japanese learned and were amazed at German Culture and Technology in modern times"
○ Reference training program FY2011
○ Small exhibition in the Kansai-kan (9) "Japanese people and English language"
○ Digital information now available in the International Library of Children's Literature
○ Book notice - Publications from NDL

国立国会図書館月報

平成 23 年 7/8 月号 (No.604/605)

平成 23 年 8 月 20 日発行 定価 525 円
(本体 500 円)

発行所 国立国会図書館
編集責任者 山田敏之
〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1
電話 03(3581)2331(代表)
FAX 03(3597)5617
E-mail geppo@ndl.go.jp

発売 社団法人日本図書館協会
〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14
電話 03(3523)0812(販売)
FAX 03(3523)0842
E-mail hanbai@jla.or.jp

印刷所 株式会社正文社印刷所

本誌に掲載した論文等のうち意見にわたる部分は、それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りいたします。本誌に掲載された記事を全文または長文にわたり抜き差しして転載される場合には、事前に当館総務部総務課に連絡してください。本誌517号以降、PDF版を当館ホームページ(<http://www.ndl.go.jp/>)>「刊行物」>「国立国会図書館月報」でご覧いただけます。



L'école de village = Terakoya : drame historique en un acte. Traduction du Karl Florenz.
Tokyo : T. Hasegawa, 1900. 28cm (標題紙 部分)
<請求記号 KG288-6 >

国立国会図書館月報

平成23年8月20日発行 (毎月1回20日発行)
(7/8月号通巻604/605号)

発売：社団法人 日本図書館協会 定価 525 円 (本体 500 円)